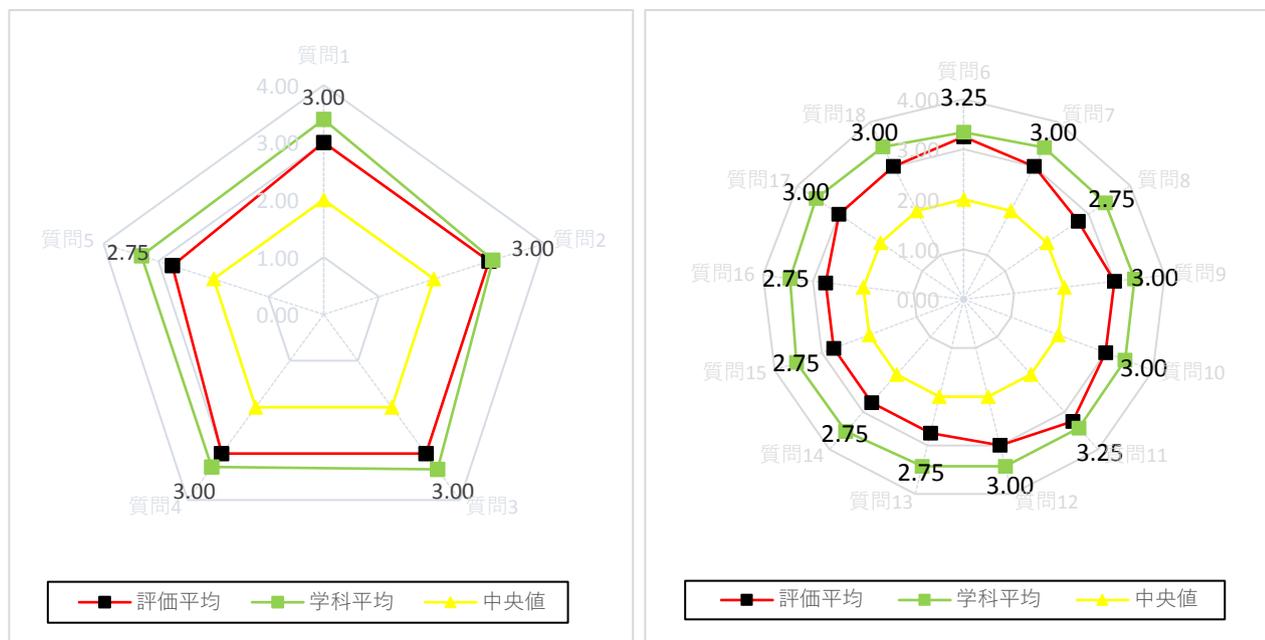


学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		あすなろう I 基礎 (初年次教育含)	7名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

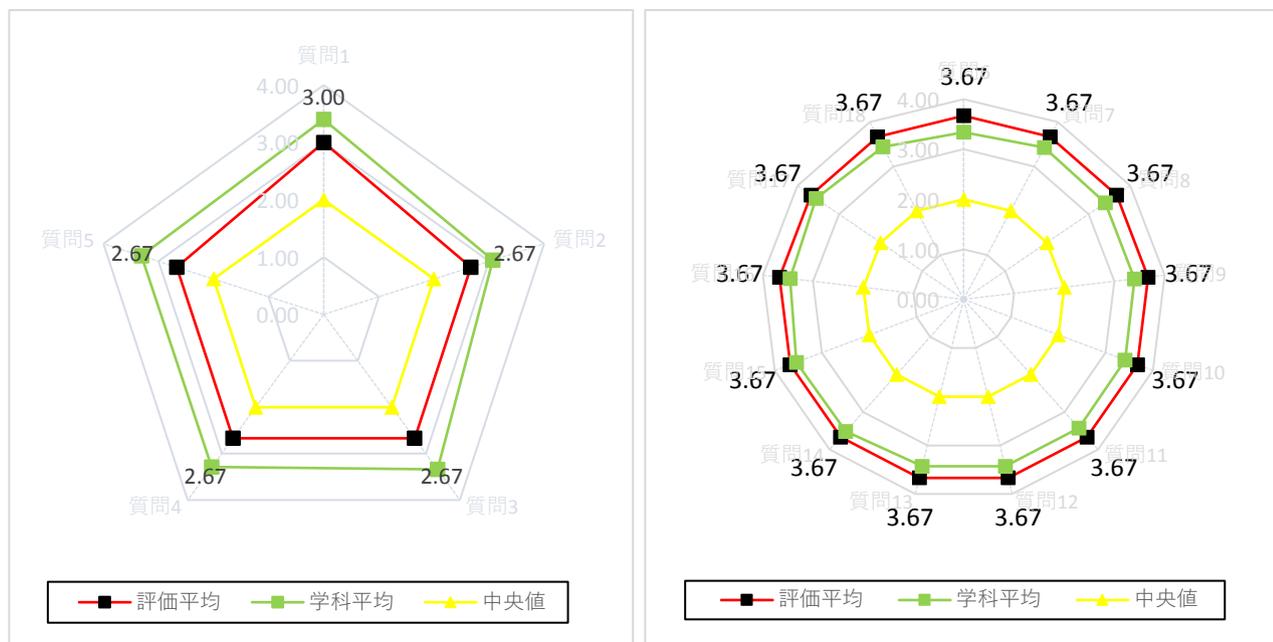
本講座は、アカデミックスキル、ビジネススキル、社会人基礎力養成、ポートフォリオの記述と活動内容が多岐にわたり、形式も全体形式、ゼミ別、個別指導と多様である。そして、その全体のマネジメントを行う役回りでもあったことで、多種多様な活動を「つくる」「こなす」ことに精一杯になってしまい、個々の活動の様態に対する指導援助が十分ではなかったように感じている。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度も活動及び立場が変わらないのであるが、マネジメントの2年目を迎え、「つくる」「こなす」ことへの注力から余裕が生まれることで、個々の活動様態により目を向けられたらよいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		あすなろう I 基礎 (初年次教育含)	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

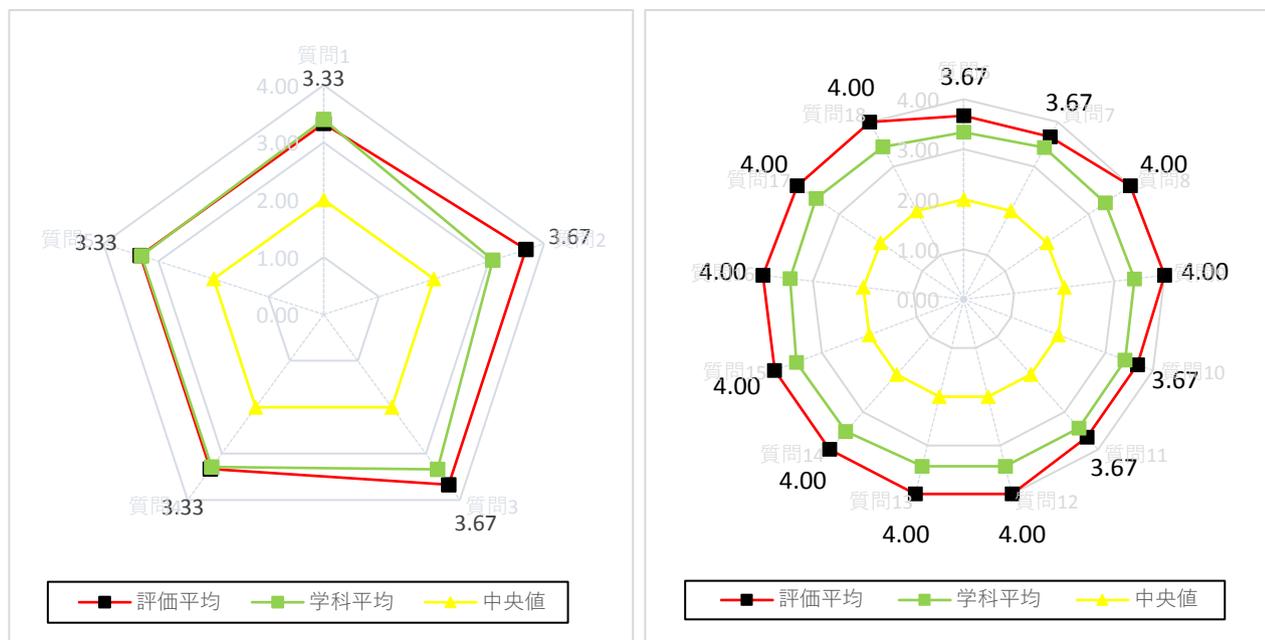
学生たちは、授業への自身の取り組みについて自覚した評価を下している。欠席が多い学生、退学者、休学者など、出席するメンバーが日に日に少なくなっていった。欠席が多い学生には、後期単位取得に影響が出ることを話すと、遅刻も少なくなり、時間通りに参加することができた。学生による評価は、妥当かどうかはわからないが、各自の考えを自由に述べさせたり、お互いが工夫しあったり、指示したりと、自由かつ活発な動きが生まれ行ったと考えられる。そうなったのは、バラバラな個性がうまく融合した結果であろうし、学生たちに考えさせ、こちらがそれをサポートしたからであろう。また、学生たちの横に行って話してあげることが、学生の理解を促し、かつ意欲を出させることにつながったことが考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

毎年、様々な個性を持った学生が入学してくる。彼らの、個性を考えながら、得意なことを早く見つけてあげて、それを表現できるようにしてあげる。そのためには、日々の課題内容、行動をしっかりとみていく必要があるだろう。初めてのあすなろうであったが、次年度では少し慣れた分、学生への目配りを重要視したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		あすなろう I 基礎 (初年次教育含)	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

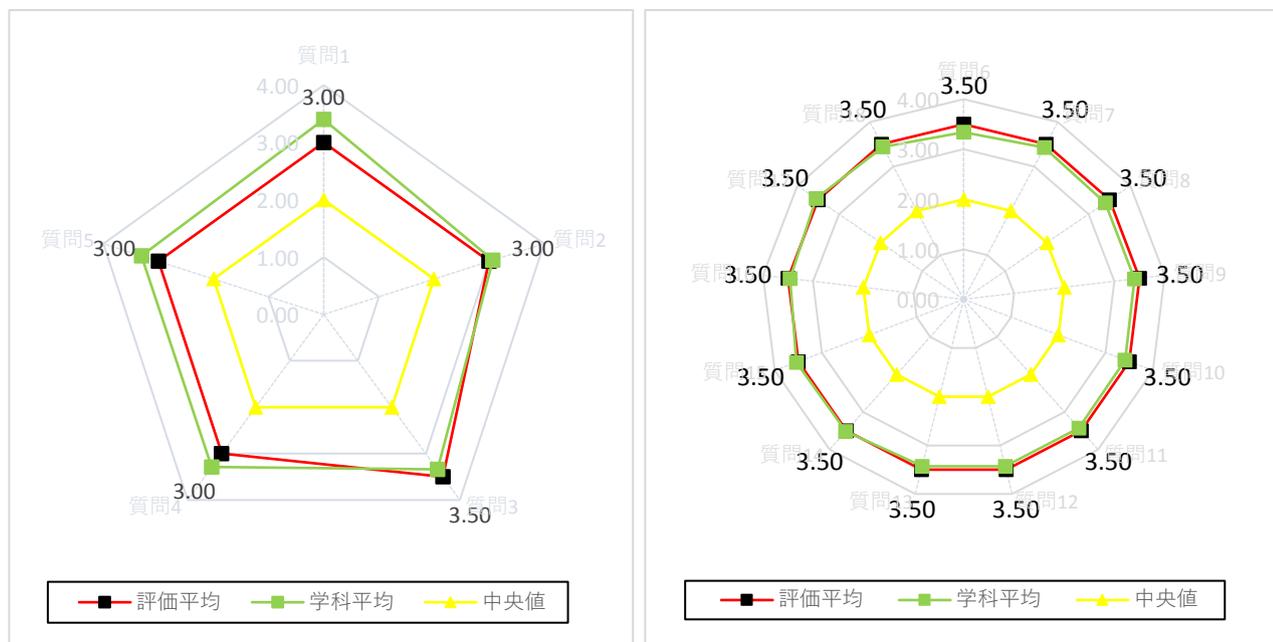
全体的に、学科平均よりも高い数値となっている。
ゼミ単位の授業では、補足資料なども用いて、学生に分かりやすく指導を行った。
また、少人数であるため、個別のつまずきや難しさを感じていることに対しては、学生の困り感を把握して個別的な対応を行った。
学生にとって、個別に応じた指導を受けたことが、高い評価に反映されたと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

少人数ではあるが、個別的な対応に偏りがでないように、全体のバランスにも考慮しながら対応をしたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		あすなろう I 基礎 (初年次教育含)	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

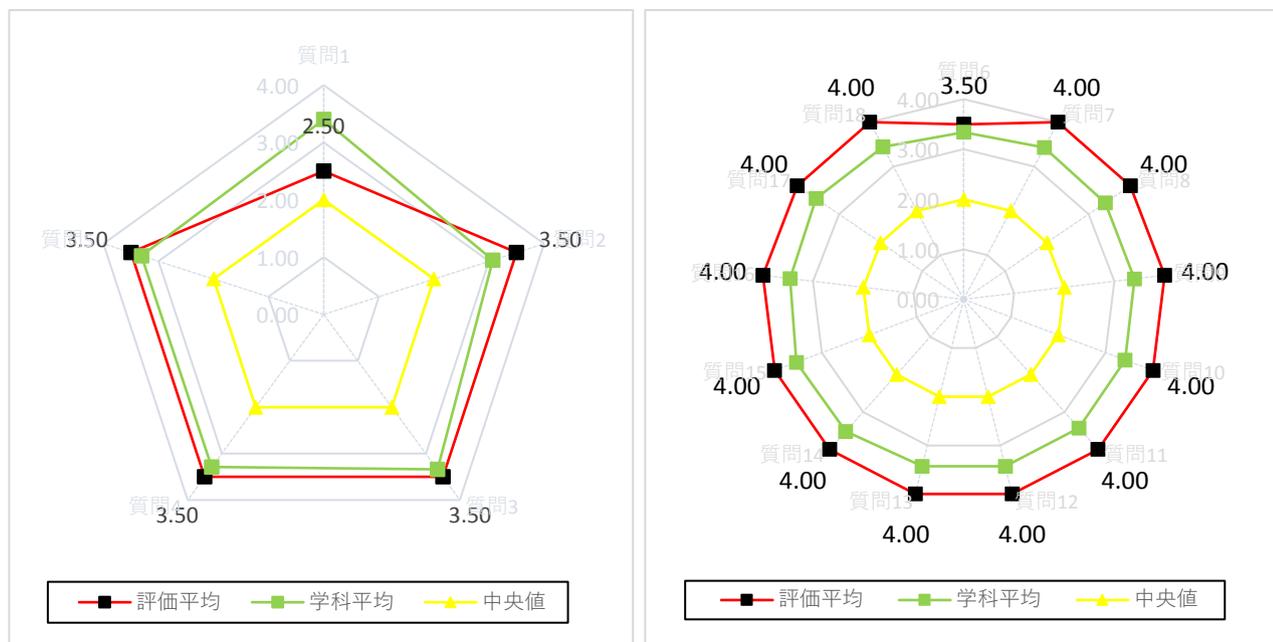
学科平均とほぼ同程度の結果となった。本科目はゼミナールでの個別指導と全体講義との割合が半々~やや全体講義が多いという構成だったために、このような結果となったことが推察される。回答者数が少ない状況もあったため、次年度は最終講義回等で十分な回答時間を確保する必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度においても、全体へ向けては指示の明瞭さに留意し、また学生には誠実・公平に接する姿勢を重視して、教育に取り組んでいく。また、一人一人のポートフォリオも小まめに確認し、あすなろう体験実習の進捗や生活状況などを把握するなかで、気になることがあれば早めに声をかけることで、学生が大学生活を滞りなく送ることができるよう支援を行いたい。次年度は、最終講義回で十分な回答時間を設けて回答を促していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		あすなろう I 基礎 (初年次教育含)	7名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

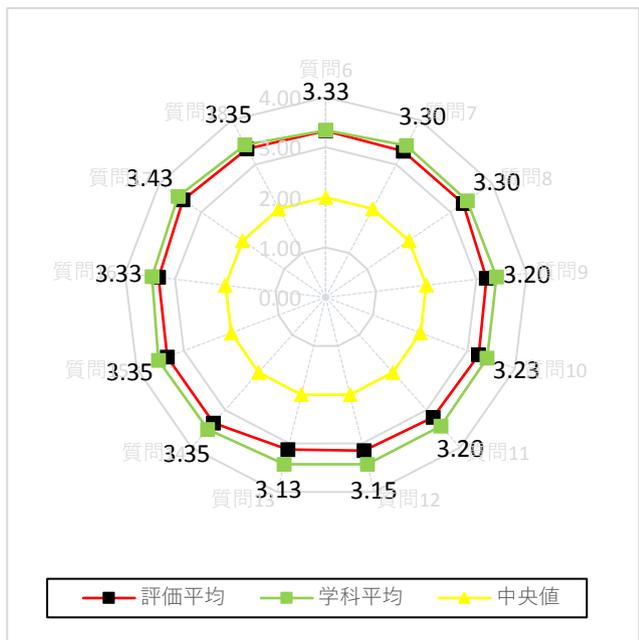
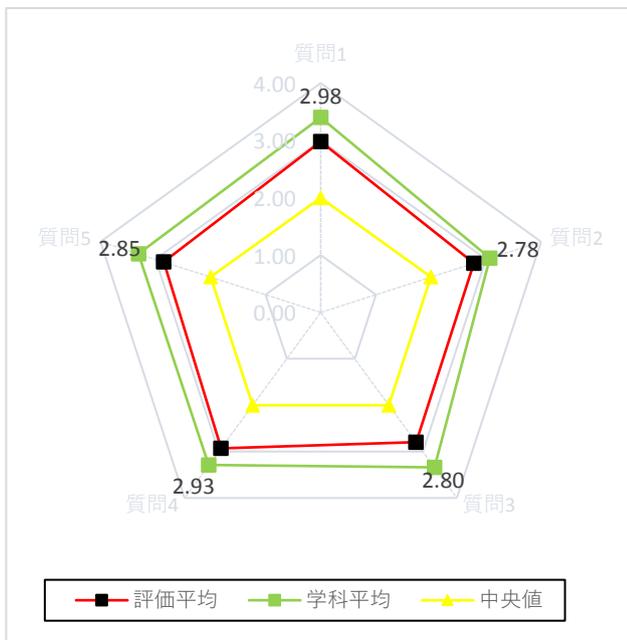
回答率が低かったのは、学生に対するアナウンスが足りなかったと思われる。
 学科平均より高い値が出ているが、回答者が少なく、また解答した学生は優秀な学生だったため、このような値が出ていると考えられる。
 数少ない受講生であり、また、1年生で緊張感も高く、話を聞く姿勢が充分できていたと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

ゼミ間の共通プログラムなので、各課題の意図を十分理解し、学生に伝えることが必要である。
 学生の状況にも応じ、対応を考えていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		情報処理入門	48名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

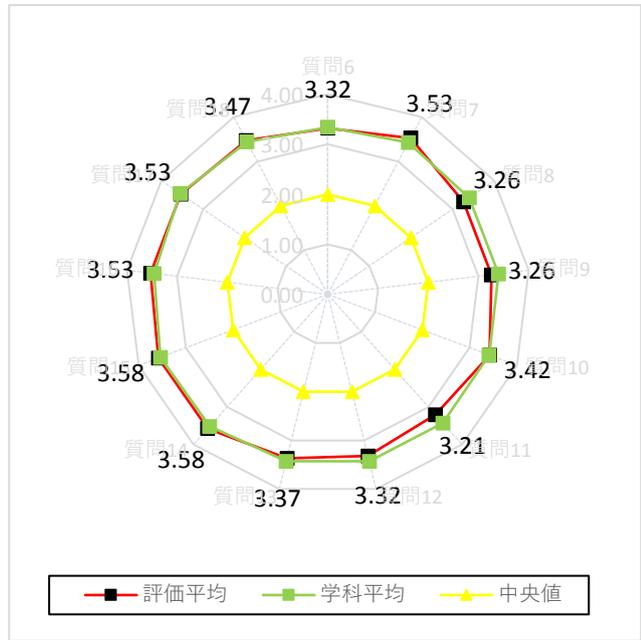
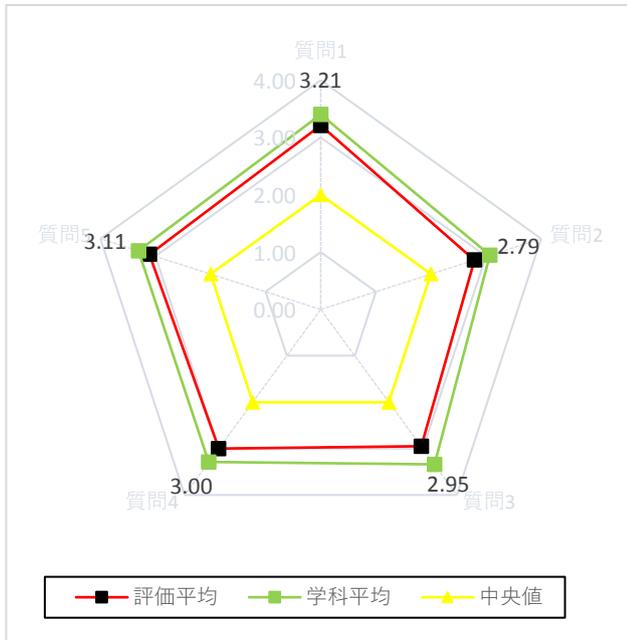
概ね良好な授業ができたものと判断する。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度もわかりやすい授業を心掛ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		情報処理基礎	44名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

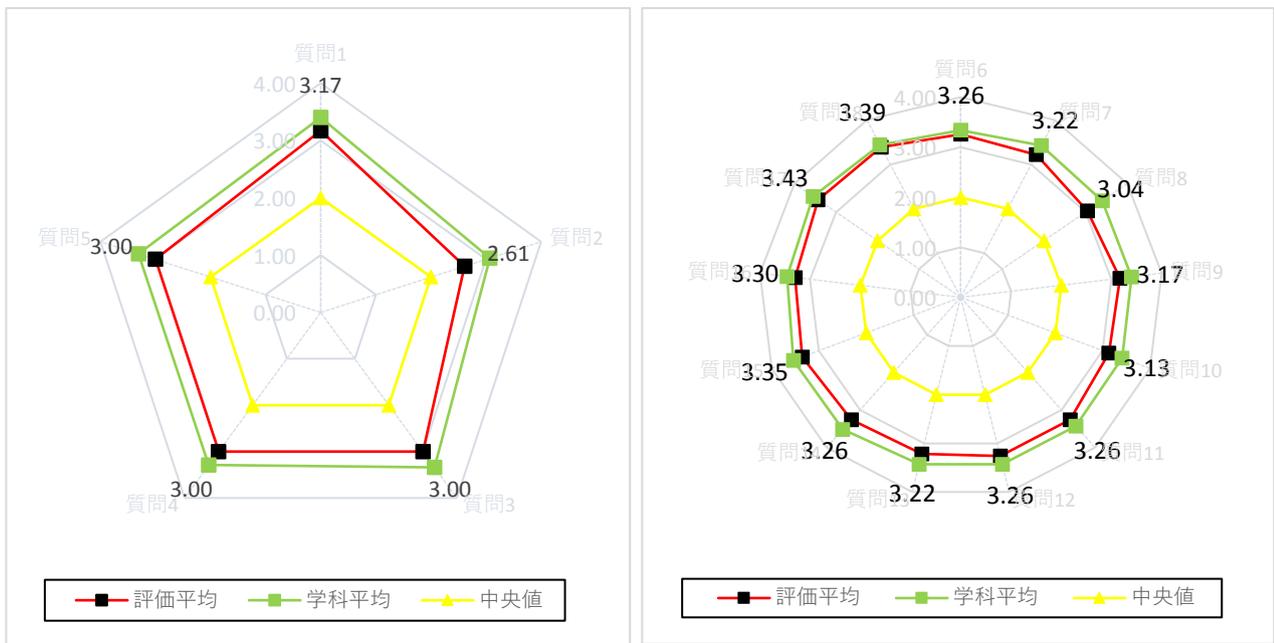
概ね良好な授業ができたものと判断する。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度もわかりやすい授業を心掛ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		心理学概論Ⅱ	47名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

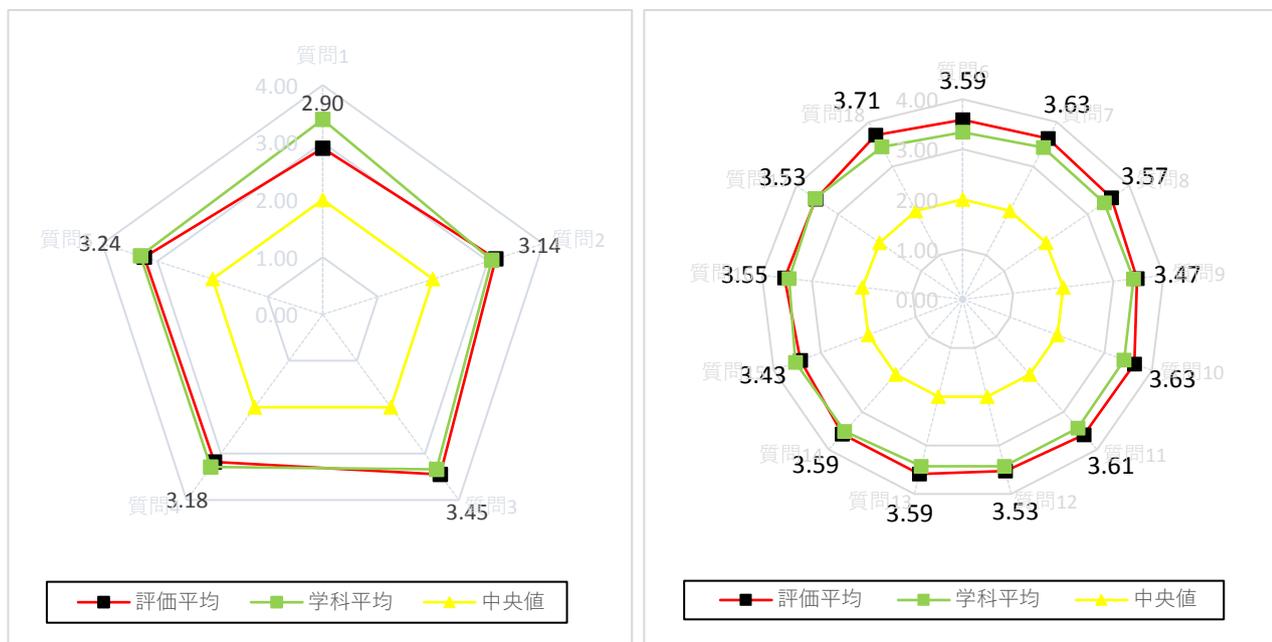
各項目とも、平均を若干下回っている。これは私自身の工夫の足りなさが大きな要因だと考えている。昨年度急に担当することになった科目ということもあり、私自身が内容そのものを深く吟味せぬまま進行してしまい、その結果何事も中途半端に終わってしまったと考えている。

(3) 次年度に向けての取り組み

内容をしっかり理解し、重要ポイントを明確に示し、説明し、そして分かりやすくするための資料を作成しながら、基礎を伝えていきたいと考える。同時に、学生の理解度を見るために、小テストのようなことも実施したいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		心理カウンセリング概論	54名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

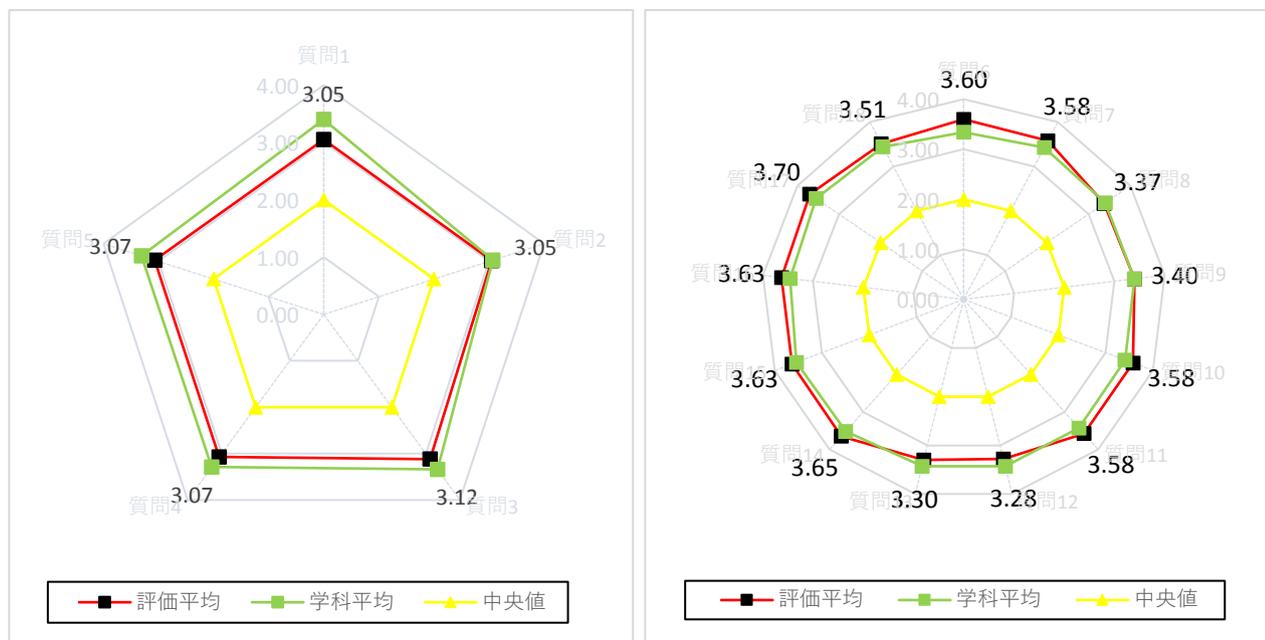
- ・ 学科平均と比較すると、質問1に関して2.90と平均（3.0）よりやや低いが、他の質問項目は学科平均より高い評価を得ている。
特に総合評価は、3.7と高い評価を得た。
- ・ 特に低い項目、高い項目はなく全体的に3.0以上の高い評価を得ていた。
以上のことを授業を振り返りながら分析する。
この学年は、学習力に差があるため、授業の工夫を行った。資料を提示し、パワーポイントを使いながら資料を再確認していく授業を行った。
さらに、その場で授業内容を確認する意味で、小テストを必ず行った。小テスト終了後、質問コーナー（紙媒体に書いてもらう）を設け、
その場で回答していく方法を取り、理解を深めてもらう工夫を行った。
特に、この科目はカウンセリングの入門編であるため、興味を持ってもらうことと、カウンセリングの概要について大まかに理解してもらうことを目標とした。反省点としては、もう少し質問時間を設け、カウンセリングへの興味を深められたらと思った。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 質問1の評価点が若干低かったが、これは、数名が3、4回ほど休む状態から低い得点が出たのではないかととらえる。今後、欠席者のフォローとして休みが続いた場合など必ず本人に連絡を取り、声掛けを行い授業へのモチベーションを高められるよう支援したい。
- ・ 質問コーナーに関しては、質問しやすい雰囲気を作りながら、1日の授業の流れを確認していくようにしたい。そうすることにより、零れ落ちる学生への支援にもつながると思われる。
- ・ 今年度取り組みたいと思っている授業内容は、昨年同様、視覚教材、資料、小テストなどを毎回取り入れ学習の進み具合と授業の目標とねらいについて確認しながら行っていきたい。また、質問コーナーを大事にしながら、学生の疑問点について、丁寧に答えてあげるようにしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		心理学研究法	48名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

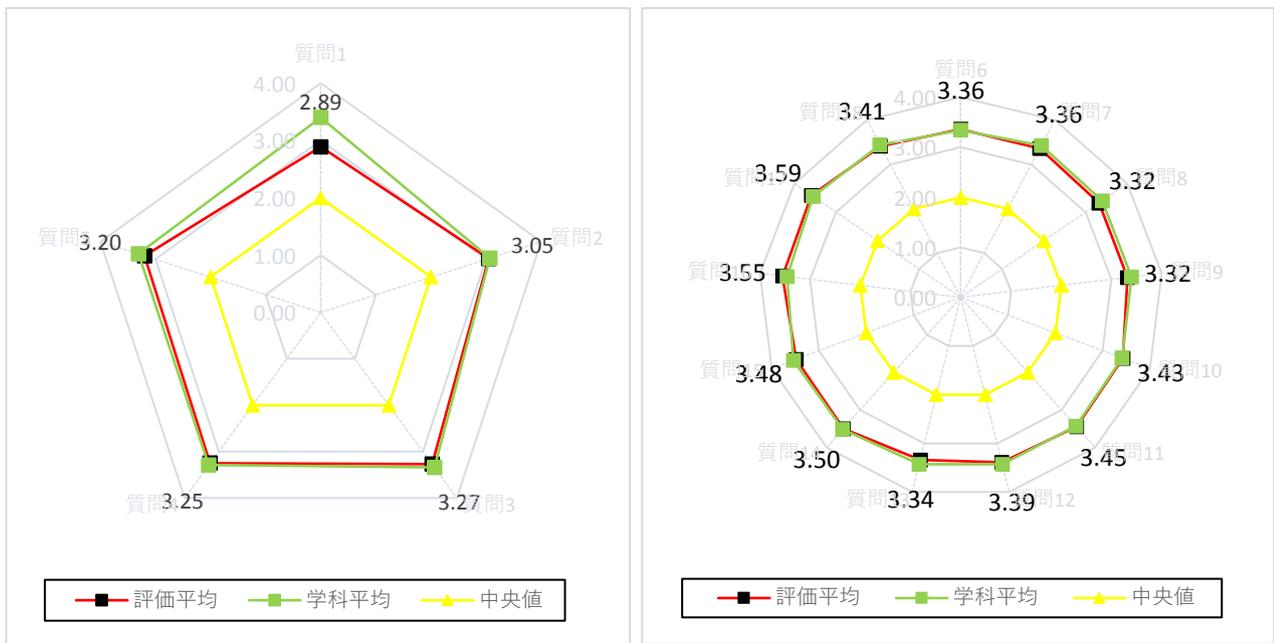
方法論の授業として、高い評価を得られた。前年度よりも課題の量を減らし適量になったことと、学生に教員に対する構えが出来ていたことが要因に挙げられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度と同様に取り組みたいと思うが、次年度は再履修者が多数受講することが予想されるので、「この授業を理解するために自分で何か工夫」することも促していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		心理学統計法	49名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

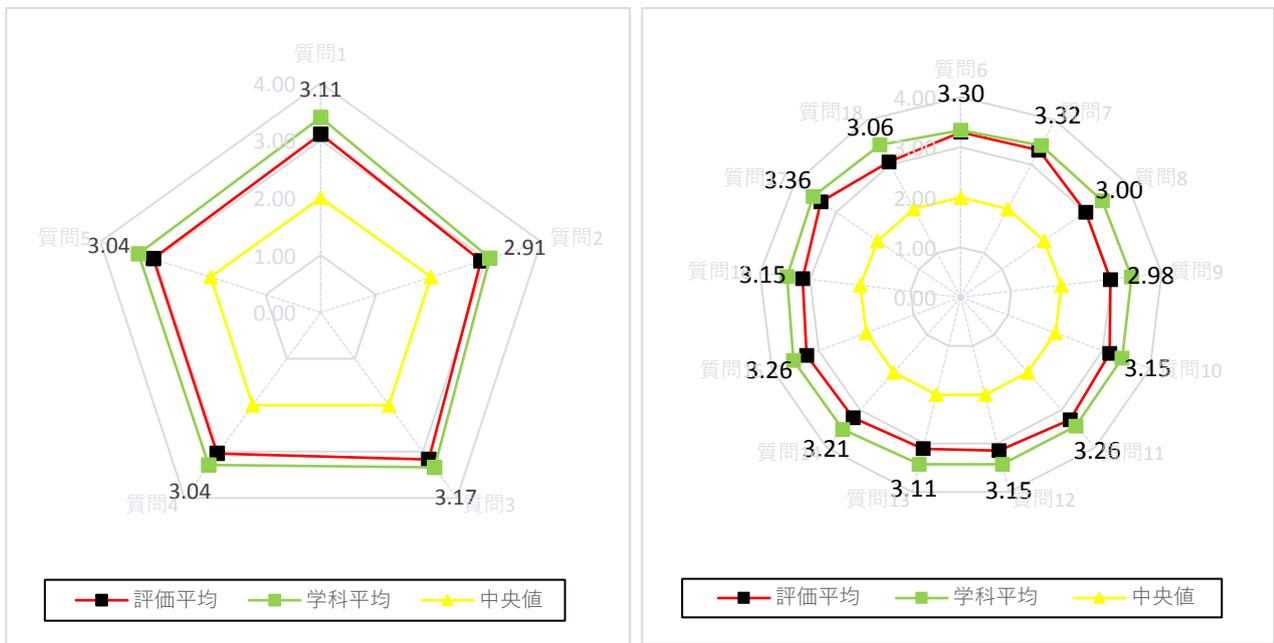
この種の教科において十分に高い評価をもらえたと感じている。反転学習による到達目標の明確化と、授業中の課題と発展課題を設けたことで学生が課題の量を調整できたことにより、各層に満足が得られたのではないだろうか。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度と同様に取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		心理学実験 I	52名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

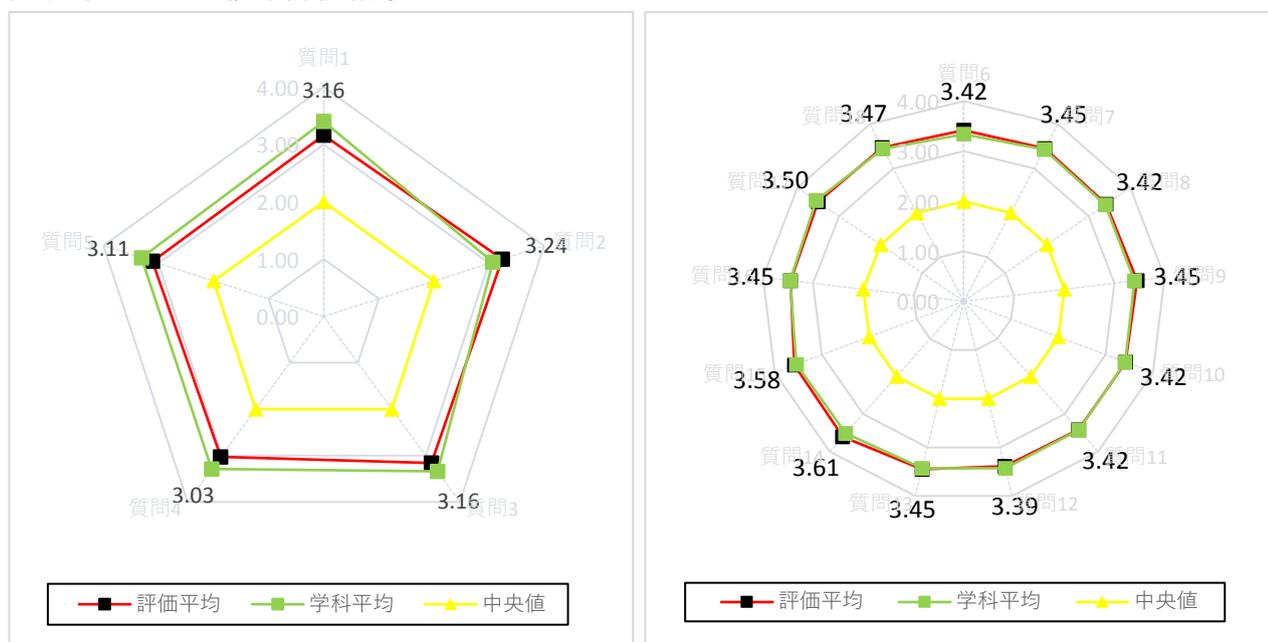
「興味・関心が持てる工夫」「授業は分かりやすくする工夫」において、授業の準備がやや不足していたと振り返る。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度の経験を活かし、授業の準備を入念に行いたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		心理学検査法 I	40名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

概ね学科平均と同程度であり、一部上回る項目が見られる評価となった。シラバスについては、初回に説明を行い、評価基準については学期末にも再度シラバスを利用して説明を行ったことで、質問6の点数は平均を上回る結果となった。

講義では、各回授業後に感想や疑問点を求め、翌日に疑問点に答えるなどすることで、疑問を疑問のまま持ち越さないように配慮したことが、質問14の評価につながった。最終授業を終えての感想にはプリントの構成分かりやすいという評価や、実際の検査用具を書画カメラを用いてICT活用を行うことで、理解が深まったという評価を得たので、ICT活用や分かりやすい配布資料の活用などを引き続き行いたい。今年度は昨年度の授業評価結果をふまえ、学生同士のディスカッションを行い発表させる時間を増やしたことも、質問8、9の結果につながったと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

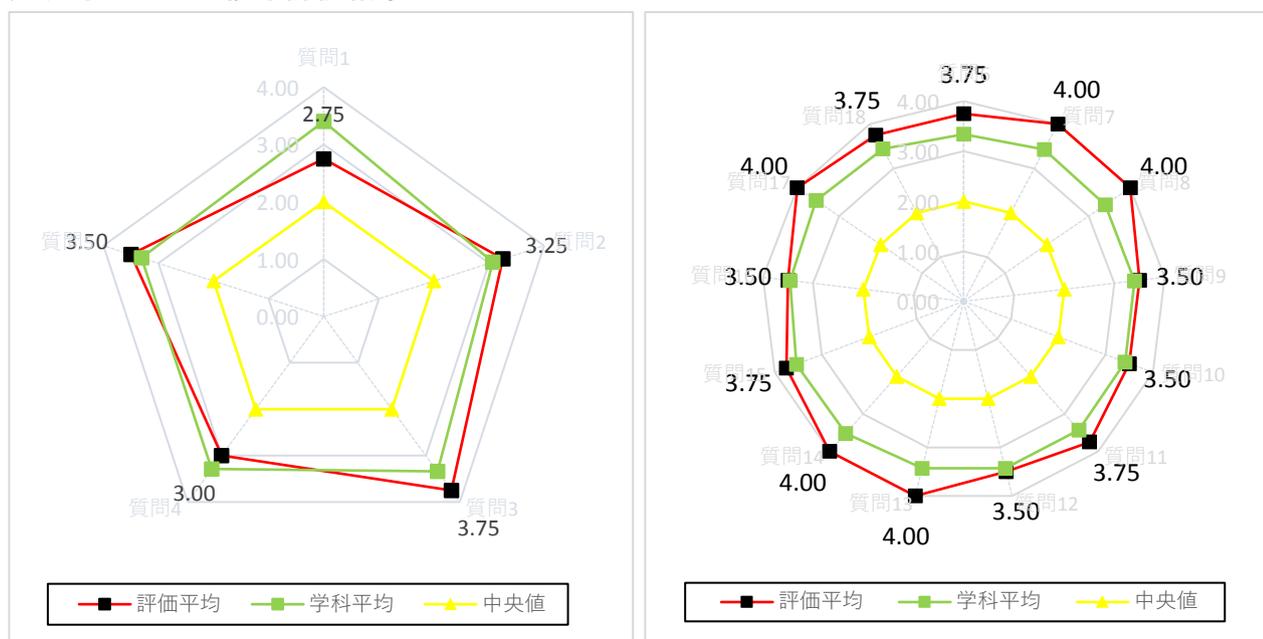
次年度においても、各回の感想・疑問を求める形式を踏襲し、授業内で生じた疑問等に適切に対応したい。また、引き続きICT活用を行い、検査用具の数の関係で多くの学生が手に取ることができない検査用具についても視覚的に理解を深める取り組みを続けたい。

今年度は授業内でグループディスカッションの時間を増やすことで、学生がより主体的に授業に取り組むことができたため、引き続き踏襲していく。

今回、十分な回答数を得たため、次年度も講義内での授業評価回答時間を確保していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		心理学検査法Ⅱ	40名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

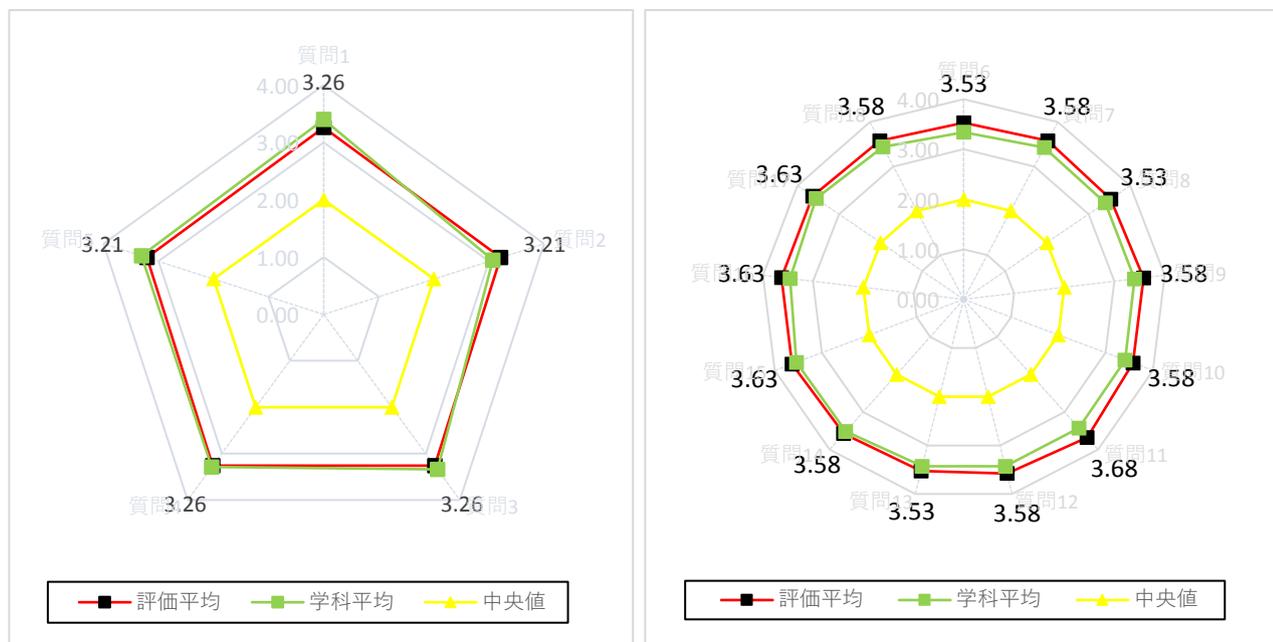
テキストを使いながら心理検査を実施する際の基本的な注意点について学んだうえで、実習に入っていった。特に実習と、心理検査場面が収録されている映画DVDの鑑賞とを織り交ぜながら、学習できたことが、上記のような結果に繋がっていることと考える。また実習を通して学生とのコミュニケーションが図れたことも大きかったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

基本的には、例年通りの進み方をとる。ただテキストが古くなったので、新しい別のテキストに変更する予定である。これを用いると、さらに実習が増えるだろうし、様々な検査をすることが可能になるので、学生とのコミュニケーションをさらに増やしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		カウンセリング基礎演習	43名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

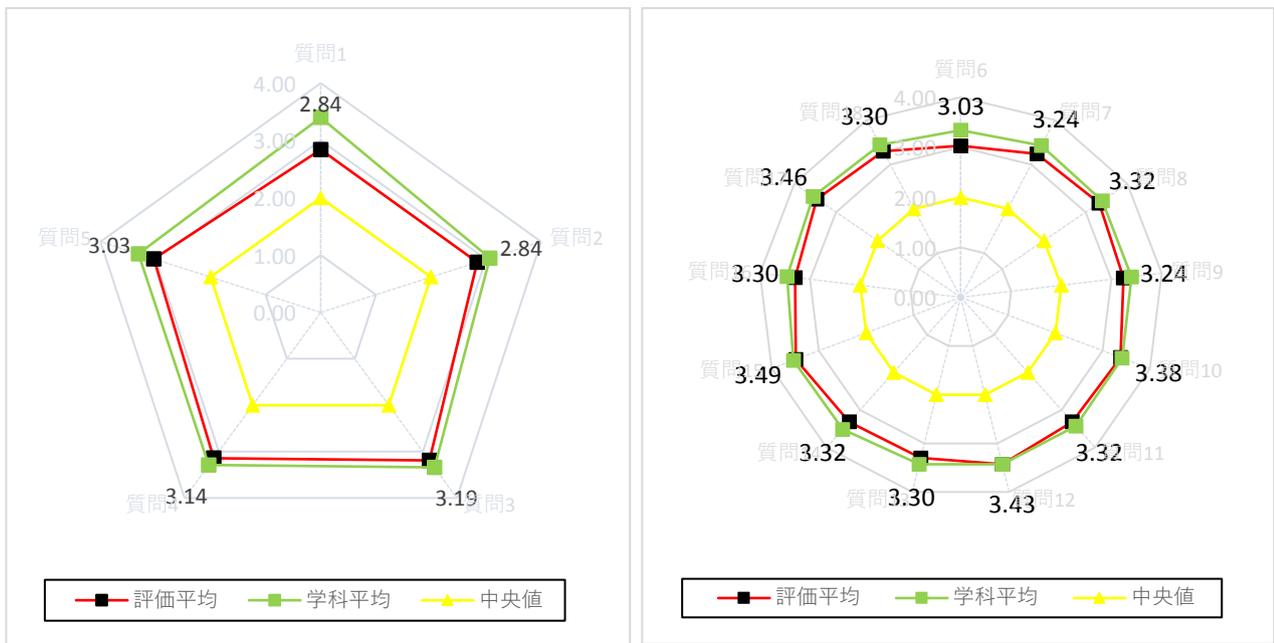
全ての質問項目において、学科平均よりも高い数値となっている。
 本講義は、カウンセリングの基礎となるコミュニケーション力を培う科目であり、個別およびグループワークが取り入れられている。
 また、毎回のレポート課題によって、自己理解を深めることを促している。
 その中で、コミュニケーションが得意ではない学生も多く、ドロップアウトしないように、細やかな配慮をしながら講義を進めることが重要であった。
 毎回の活動の目的や内容を伝えながら、必要な知識や経験につながるよう意識化を図ったことや、レポート課題のフィードバックなどを行ったことが高い数値につながったと思われる。また、授業計画においても、学生の動向を見ながら組み立てることも念頭に入れ、学生の状況に応じた授業を行ったことも効果の1つだと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業の計画・内容について、担当者間での情報共有を行い、再検討をする。
 さらに、授業の到達度は、適切かどうかを検討する。
 そのうえで、今年度同様に、きめ細やかな対応を行いながら、カウンセリングの基礎を促していく必要があると考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		命の尊厳	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

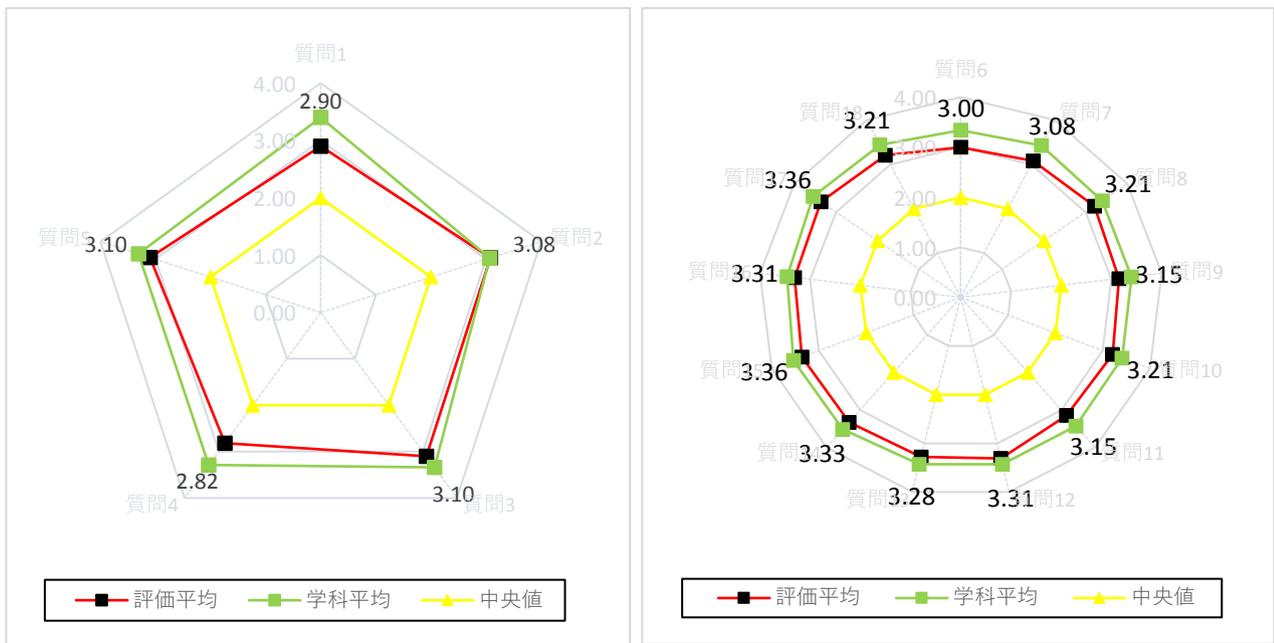
全項目ほぼ学科平均値に近い。

(3) 次年度に向けての取り組み

シラバスに関する説明を強化する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		倫理学概論	42名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

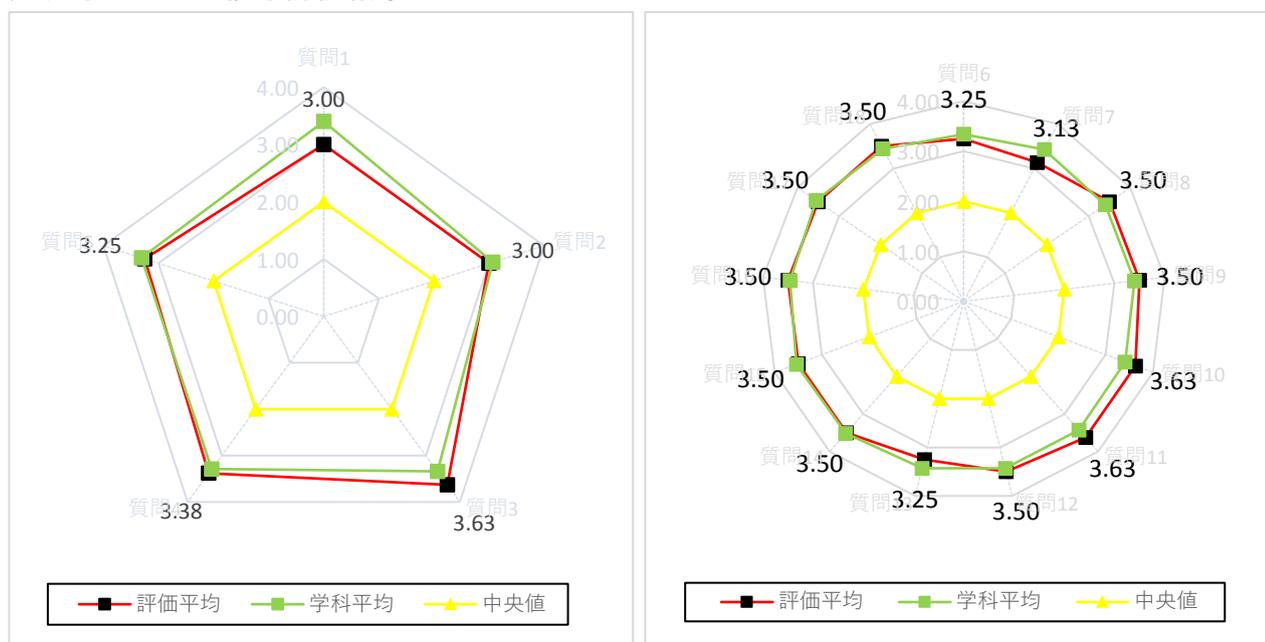
シラバス、到達目標の説明、教科書等の使用に関する評価が低位であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

低位にあった評価項目の向上をはかる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		対人関係論	58名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

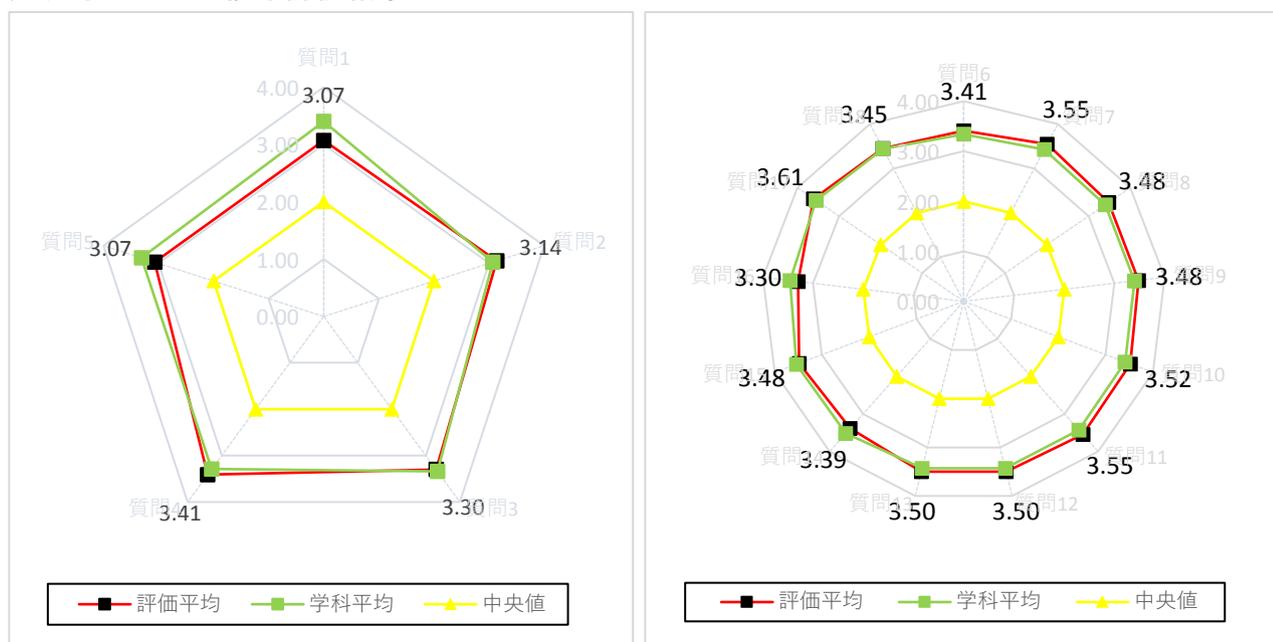
講義では、パワーポイントによる板書資料をノートにまとめることを求めた。レポート課題では、講義で学んだ内容にコメントしたり、日常例を挙げたりする解答を求めた。授業の最後に当日の講義に対する気づき・意見などをA5判の用紙に記述させ、講義の要点に触れた何人かの記述を講義の最初の時間帯で紹介し、復習の充実を図った。しかし、講義の内容を十分に理解できていないため、課題への的確な内容をレポートできていない者が少なからず存在した。指導の吟味・改善が必要と考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

学期末のみのレポートではなく、日頃から講義のまとめりごとに複数回の小テストの実施により、内容の定着と書き方の指導を行うなどの工夫・改善を行いたい。質問7への受講生の回答が、学会平均を若干であるが下回っている。この工夫・改善は、この点への取り組みとなることを期待したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		発達心理学 I	46名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

・学科平均と比べると、全体的に高い評価を得ている。総合評価は3.41であり、学生による総合評価も、3.45である。

・特に低い評価項目や高い評価項目は見られなかった。

以上のことから、本授業を振り返りながら分析する。

まず授業の形態であるが、発達についてのDVD教材を用いて、毎回各年齢にお発達の特徴について20分程度視聴してもらう。その後、教科書と資料を用いてパワーポイントによる視聴覚教材の振り返りを行っている。その後、内容の理解度の確認をするため、小テストを行っている。終了後小テストの解説を必ず行い重要箇所のチェックをするようにしている。発達心理学は、「こころの発達」の基礎であり、入学してはじめて専門的学習をする科目でもある。

学習力の開きがある学年にとって、心理学の登竜門のような科目でもあり、心理学及び人間に対する興味を深めてもらうことを大きな狙いにして取り組んでいる。このことが、学生にも通じ興味を持ってもらっていると思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

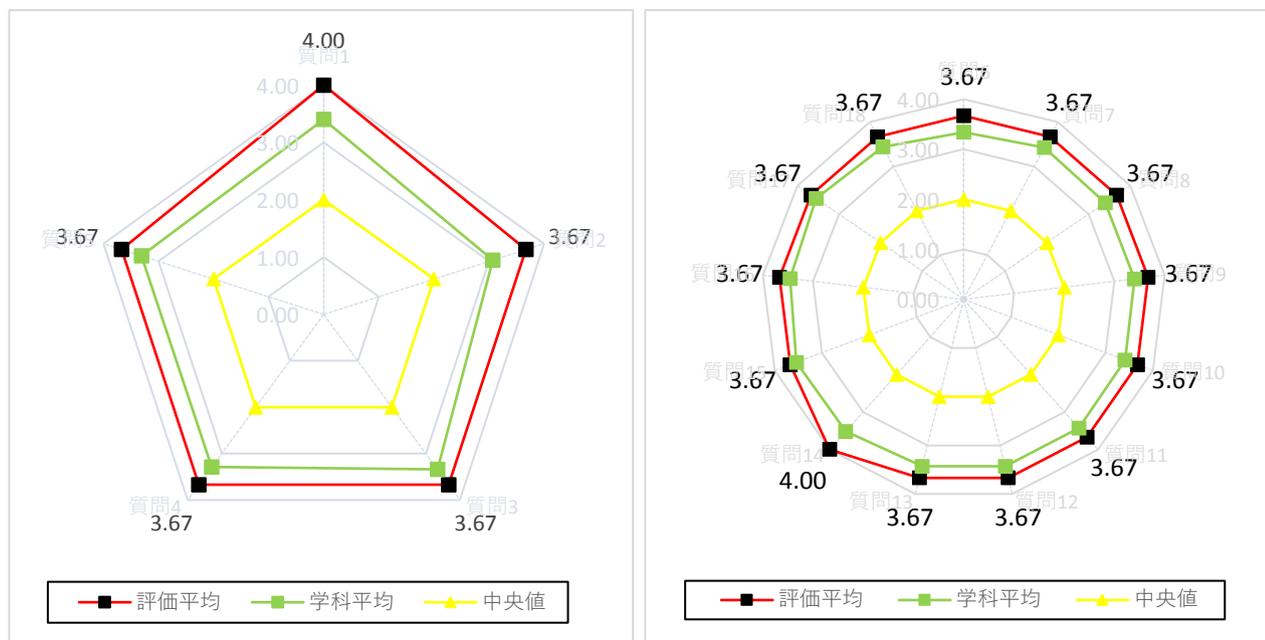
・特に低い質問項目や高い質問項目はなかったが、入学してすぐに始まる授業でもあり、シラバスを用いた説明、資料提示、視覚教材など学生が興味を示してくれるような工夫をさらに続けていきたい。特に視聴覚教材は、年々変化する社会の様相を取り入れながら、人間の発達について、一緒に考えていけるような教材を見つけ、教材研究を行いながら取り組んでいきたい。さらに、教科書や資料を用いながらのノート作成など、書く力も強めてあげたいと思う。

年々文章力が低くなり、レポートなど苦手な学生が多くみられる。見て、書いて、理解する力をつけてもらいたいと考える。

そのため、今後の授業の展開も、昨年同様、本授業の目標やねらいに沿って、視聴覚教材の工夫、わかりやすい資料作成、わかりやすいパワーポイントの作成など教材づくりの工夫を行っていききたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		経済学概論	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

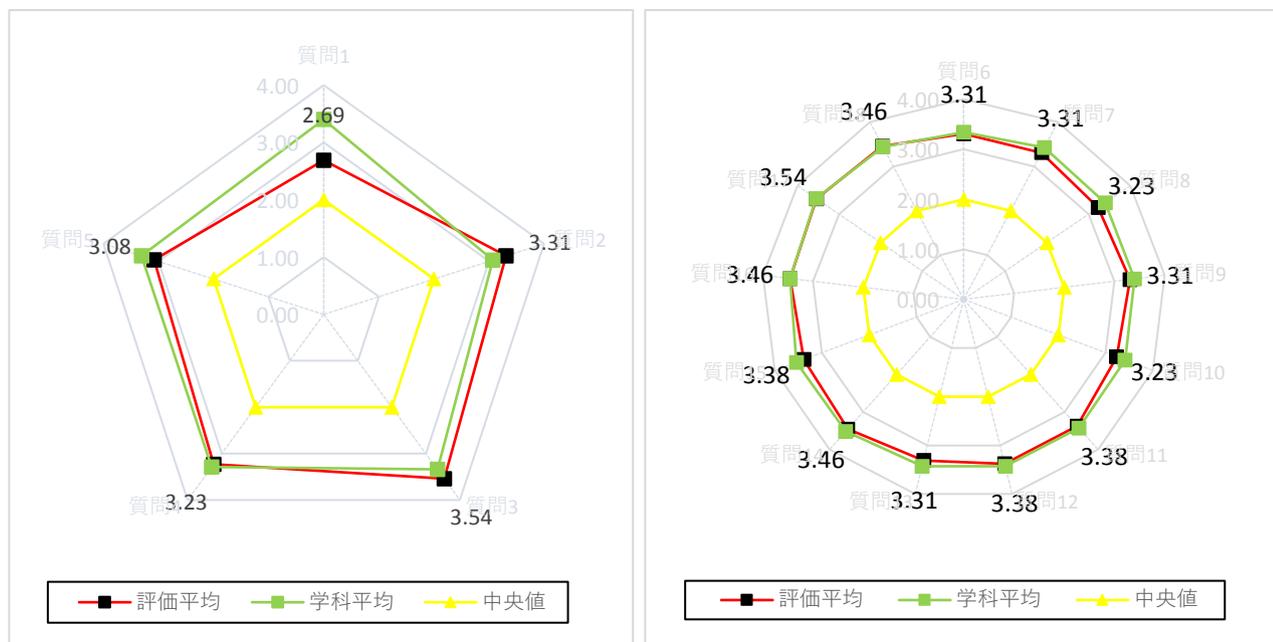
この授業の目的は、現代経済学を構成するミクロ経済学とマクロ経済学を理解することにあつたが、授業評価および試験結果からみて、これは十分に達成できているものと思う。□

(3) 次年度に向けての取り組み

今後はもっとわかりやすい資料の作成を心がけつつ、少人数でもあるため、一方通行的な授業ではなく、学生諸君と対話し、意見や質問を聞きながら、より興味深い授業に改善していきたいと思う。また、穴埋め形式のプリントなども作成・配布して学生諸君が飽きない授業を心がけたいと考えている。□

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		家族心理学	18名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

本講義は、学生がテーマ毎にまとめのレジュメやパワーポイント資料を作り発表する演習形式を主に行った。また、発表後に受講生全員でディスカッションを行う主体的学習を行った。そのため、学生自身の取り組みについて高い評価となったと思われる。質問10については、教員が主導しての講義ではなく、板書等も必要時以外は行わなかったため、評価が低くなっていることが推察される。しかし、学生の発表テーマに関連する資料などは教員側も準備し、その教材に関しては、質問11にあるように、平均程度の評価を得たと思われる。

質問14、15、16、17についても平均程度の評価を得ており、学生・教員間の双方向的なディスカッションを行う形式の本講義が一定の評価を得たと思われる。

最終回の授業時間内に授業評価を行う時間をとったが、十分な時間がなく、授業評価に回答しない学生も見受けられた。今後さらに多くの学生からの回答が得られるよう工夫していく必要があると考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

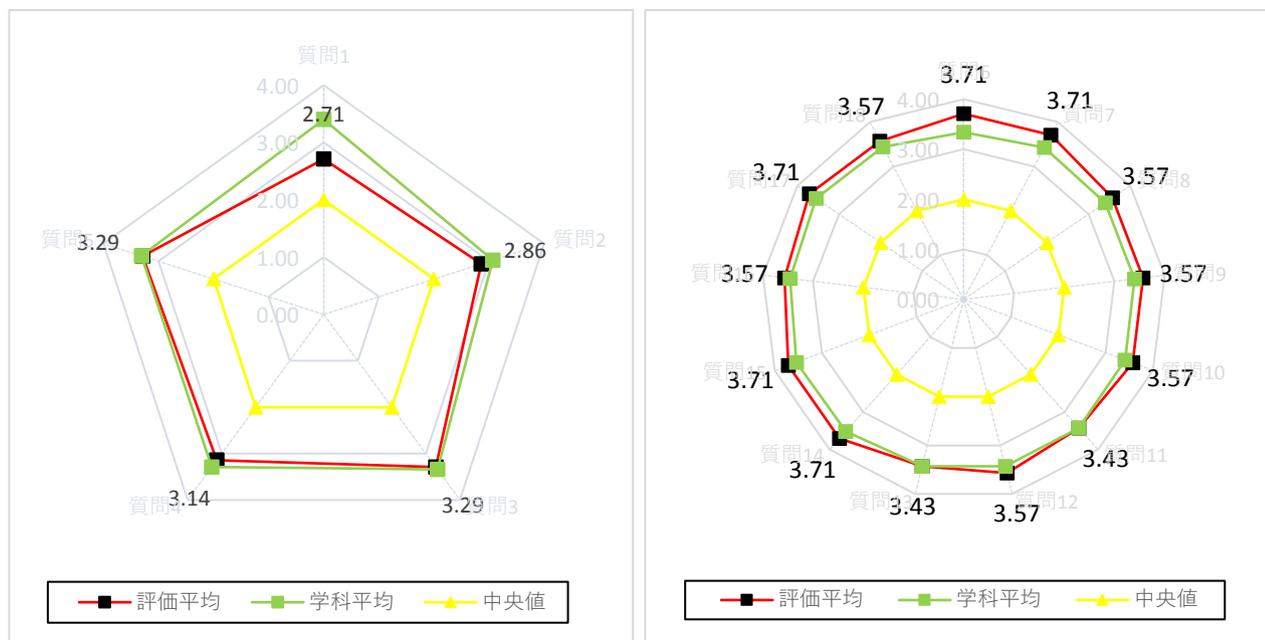
受講生がテーマに関する発表を行い、また積極的にディスカッションを行うという本講義形式は、学生自身の主体的な学びにつながるため、今後も踏襲していきたい。

回によっては、発表時間とディスカッション時間のバランス調整が難しかった回があったため、次年度以降は時間配分にさらに留意しながら進めていきたい。ディスカッションでは、一部学生が積極的に発言したものの、こちらから指名しないと発言しない学生も見られた。より活発なディスカッションができるよう小グループでのディスカッションの後に全体で発表するなど、今後工夫していきたい。

授業評価回答数についても、授業時間内で授業評価に取り組む時間を十分に確保することで、多数の学生からの回答が得られるよう工夫を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		コミュニティ心理学	47名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

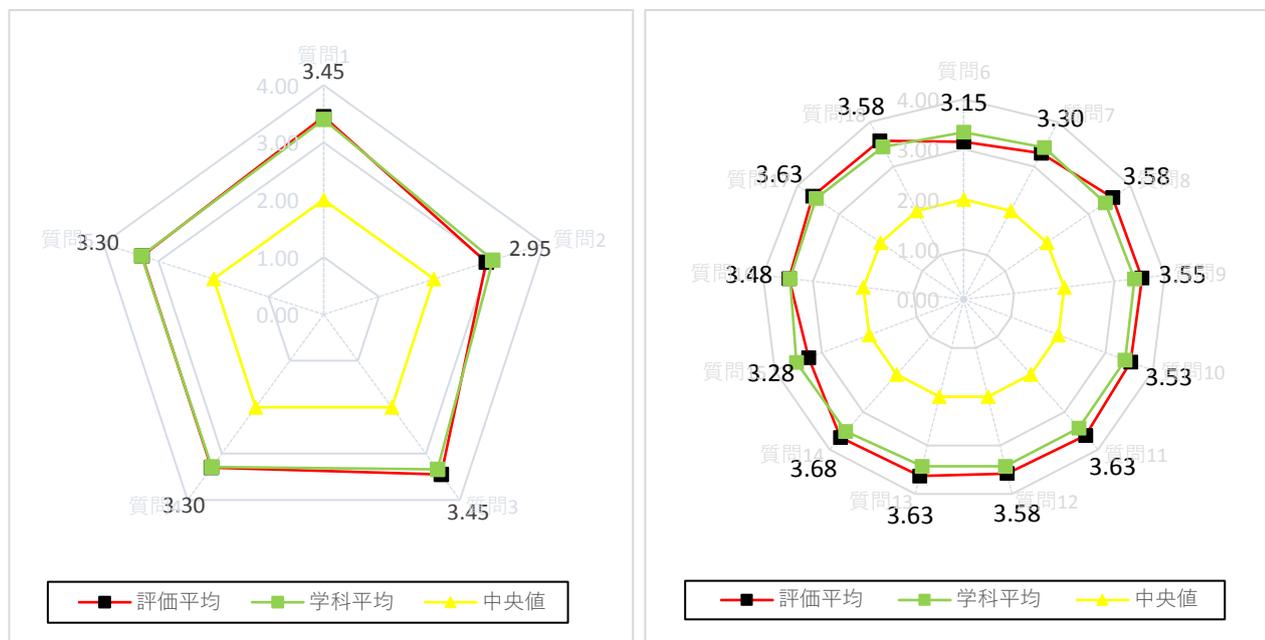
本講義では、質問6～18において、学科平均よりも高い数値となっている。しかし、質問1は学科平均より低い数値であり、一部の学生は、欠席が目立っている。そのため、講義への学習意欲を引き出す工夫が必要であった。しかしながら、パワーポイントを用いた説明と、事例検討など実践につながるグループワークを取り入れたことが数値につながったと考える。また、レポート課題では、全体だけでなく、書面による個別のフィードバックが学生の関心や取り組む意欲に結びついたと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

認定心理士の資格に関連する科目のため、学生がコミュニティ心理学の学びから、心理職や指導員などの現場での実践と結びつけるような知識の習得と経験につなげるアクティブラーニングの工夫が必要となると考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	子ども心理カウンセリング		児童臨床心理学	49名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

・学科平均と比較すると、質問2の学生によるシラバスの活用、質問6の教員によるシラバスの説明、質問7到達目標の説明、質問15の公平に学生に対する対応の項目が若干低かった。確かに、シラバスについての説明は、最初にしておらず反省すべき点である。公平な学生への対応については、気になる学生や対応に苦慮する学生が数名おり、授業中に時々声掛けを行いながら情業を行ったのは事実である。しかし不公平になるようなことでもなく苦情はその場では出ていない。こういう場合の対応は難しいと感じる。

・学生による総合評価は、3.58と平均よりも高く、全体的にも平均値を上回っている項目が多い。新カリキュラムによりこの授業は最後になるため、おのずと力を入れた授業でもある。中でも、視聴覚教材や資料を用いて説明し、最後に小テストを行う方法を行った。中でも、児童への心理療法について心理技法を用いた実践は全員がきよみを持ってくれたようである。

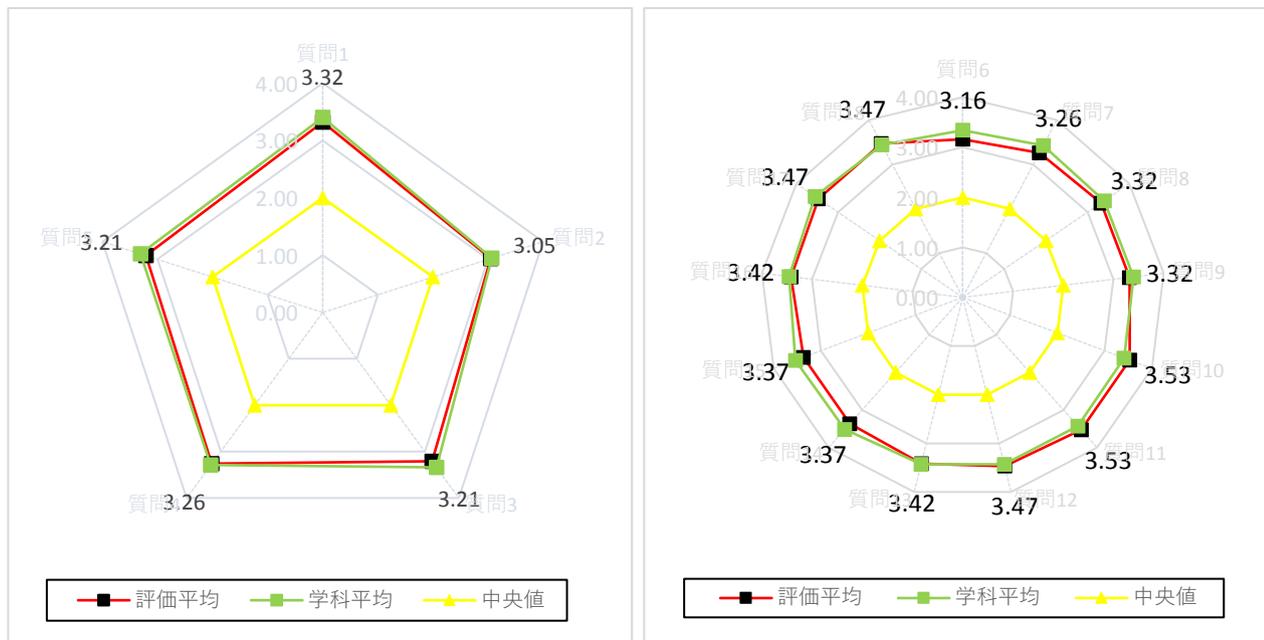
(3) 次年度に向けての取り組み

・学科平均より評価が低かった項目については今後見直す必要を感じる。特に、シラバスの説明や、授業の目標、ねらいなど最初にきちんと伝えてからの授業を展開する必要があると感じた。また、学生を公平に対応することは大切であるが、どうしても場を乱す学生や注意、関心を向けないといけない学生など多くいる学科にとって、難しい課題である。特に今回が他学科（子ども学科）からの受講生がいて、場の雰囲気も違うためなおさら感じたのかもしれない。今後そういう場合の対応の仕方も考慮しないといけないと感じた。

シラバスに関していうと、授業開始時など学年が上がると、持参する学生がほとんどおらず、最初の授業時間にきちんとアナウンスするようにしないといけないと思った。今回が最後の授業であったが、比較的学生はまじめに取り組んでおり、特に児童に関心がある学生も多く、就職等にも影響を与える授業であると感じた。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		児童臨床心理学	43名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

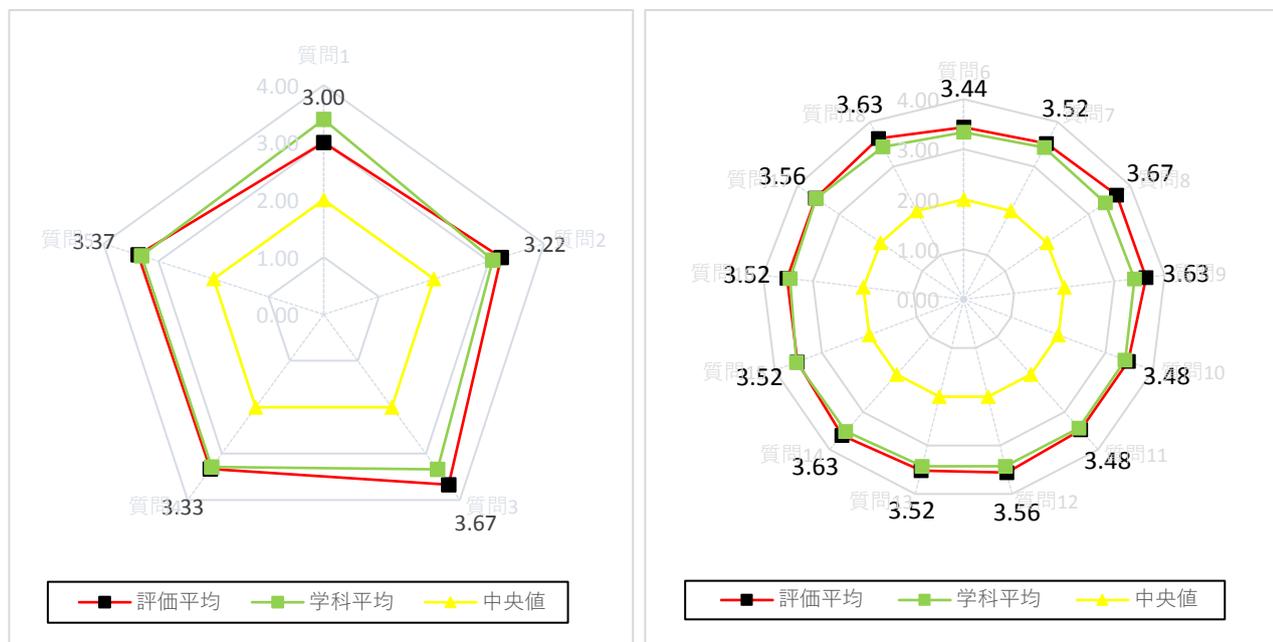
ほぼ平均値にあるものと推測する。教科を進めていくにあたり、到達目標を明確にして授業を進めていくことを疎かにしていたことに気づいた。手作りの資料を配布し、穴埋めを学生してもらいながら、学生の集中力を途切れさせないように努めた。結果として、可もなく不可もなくという成績におさまったのだと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

具体的に学習到達目標を伝えるとともに、1回ごとに理解してほしいポイントを明確に伝えていこうと考える。また、学生自身が親として、セラピストとしてどう考えるかという視点も聞いていこうと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		発達障害者教育総論	40名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

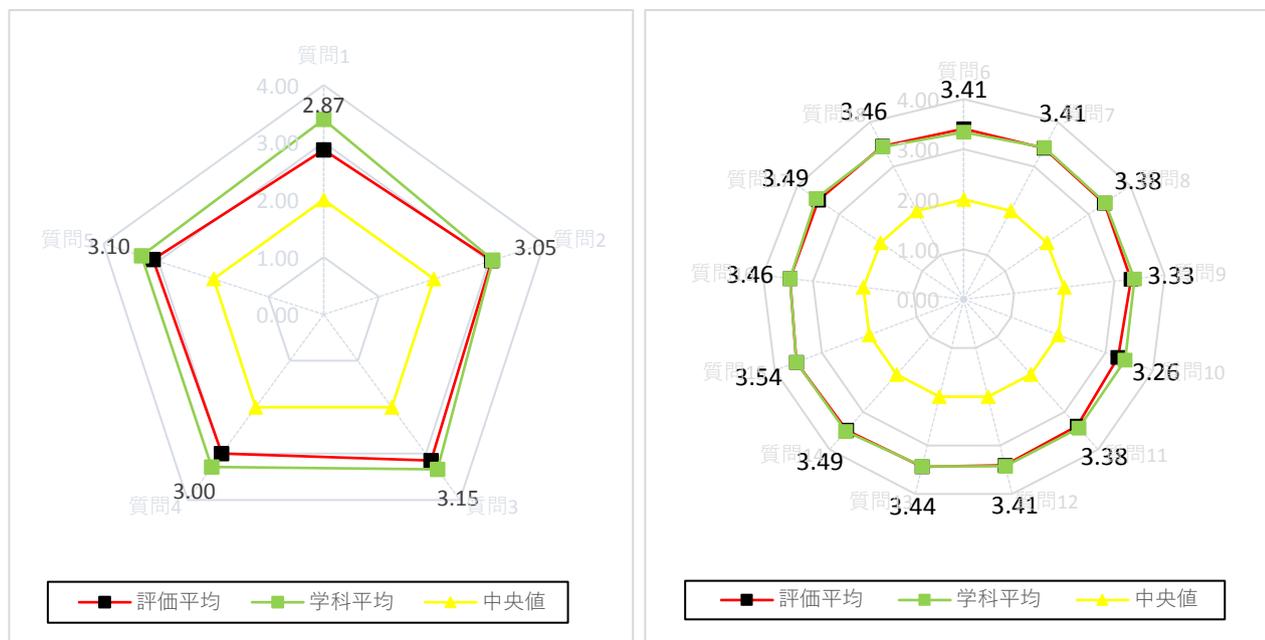
質問3「居眠り・私語をせず真剣に取り組んだ」が3.67、質問4「自分で努力した」が3.33、質問5「自己評価」が3.37と、平均値より高い評価であった。また、質問8「興味を持てる工夫」は3.67、質問9「分かりやすさ」は3.63、質問14「誠実さ」は3.63、総合評価は3.63と、高い評価を得ている。今期の授業では、これまでのDVD使用による授業教材の工夫に加え、架空事例を用いて受講生同士でアイデアを出し合うグループ・ディスカッションを、従来よりも時間を割いて行ったことが、学生への評価になったと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

継続して、学生自身が主体的に考える授業の工夫を行っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		医療心理学	43名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

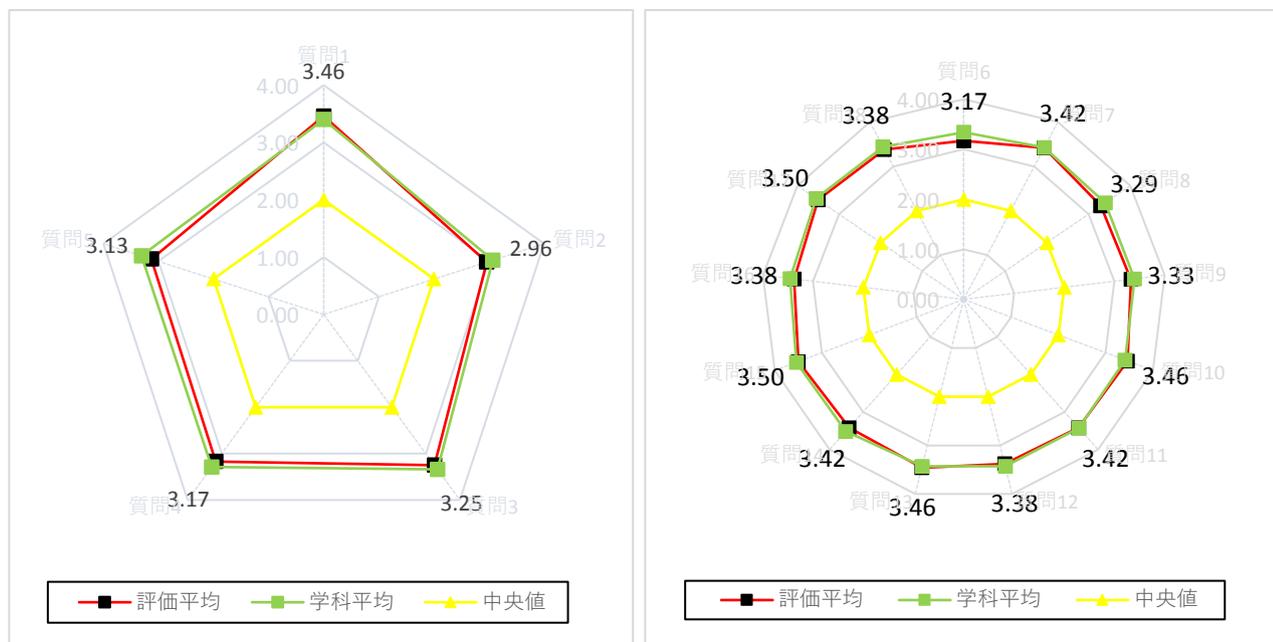
公認心理師受験に際して必要な科目である。内容的に幅広く、同時に細かいので、学生にとっては難しい教科かもしれない。専門用語の解説は必須になるだろう。こうしたことのため、学生は受動的な構えにならざるを得ないかもしれない。アクティブ・ラーニングに持っていくには、基礎となる知識を身に付けてもらう必要があるだろう。

(3) 次年度に向けての取り組み

基礎心理学がベースにないと理解しにくい領域がふくまれるので、基礎的な領域を伝えながら説明していき、理解を深めるようにしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		知的障害者の心理・生理・病理	48名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

回答率50% (24/48)、総合評価3.34

自由記述：マイクを使って欲しい。〇〇先生のレポートに要する時間が毎回3～5時間かかり、非常に大変だった。

本授業は、知的障害心理に関する基礎知識や、心理機能と発達支援、知的障害児(者)に対する心理検査やアセスメントについて理解することを目的とした。

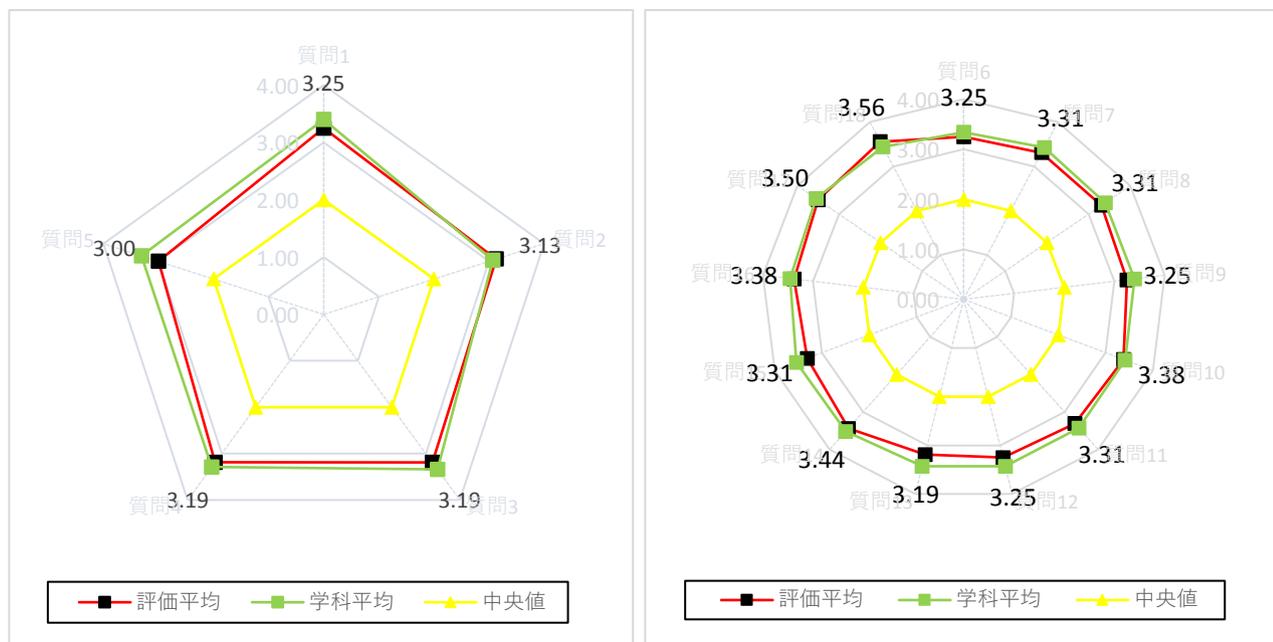
質問6～18の評価については、3.17～3.50の範囲であり、学科平均と同等の評価であった。昨年度の評価より微増しているが、回答率は86%であったため考察は参考程度にとどめたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

オムニバス形式の授業のため、評価についての分析には課題がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		人格心理学	31名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

多くの項目で学科平均と同程度の結果となった。

今年度より授業内容が「感情心理学」と「人格心理学」の2部構成となったため、授業で解説するテーマが幅広くなり、内容量が前年度よりも増えたことで、質問13にあるような授業進度について、学生の理解状況よりも早い進度となったことが懸念される。内容をさらに精選していきたい。

各回授業後に感想や疑問点を求め、翌回に疑問点に答えるなどすることで、疑問を疑問のまま持ち越さないように配慮した。そのため、質問14や質問16の点数につながったと考える。

配布資料は重要語句が分かりやすいよう工夫し、視聴覚教材の視聴やテーマに関する質問紙を利用することで、自己理解とテーマ理解も深まることも狙った。総合評価が学科平均を上回ったのは、自己理解を深めるような機会となったことへの評価とも考えられる。

回答率が半数程度となったことが反省点として挙げられる。

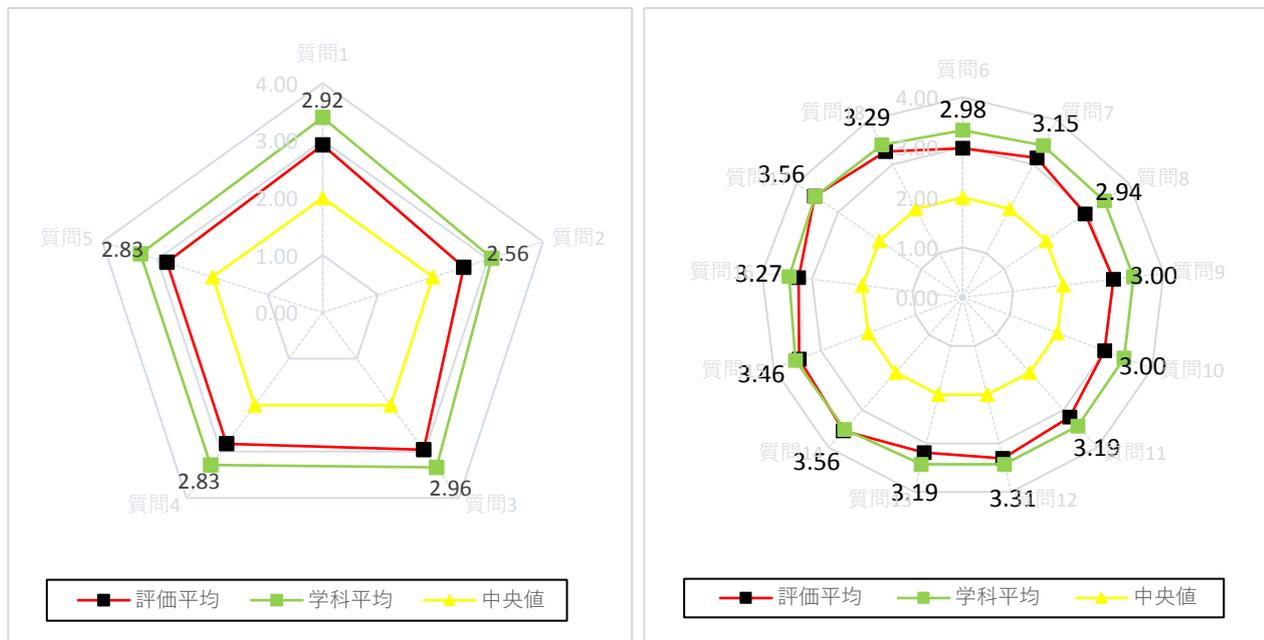
(3) 次年度に向けての取り組み

次年度においても、各回の感想・疑問を求める形式を踏襲し、授業内で生じた疑問等に適切に対応したい。また、引き続き視聴覚教材やICT活用を行い、テーマを視覚的に理解を深める取り組みを続けたい。

4年生対象の科目でもあるので、次年度については授業内で適宜グループディスカッションの時間を増やすことで、学生がより主体的に授業に取り組むことができるよう改善を行いたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		臨床心理学概論	52名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

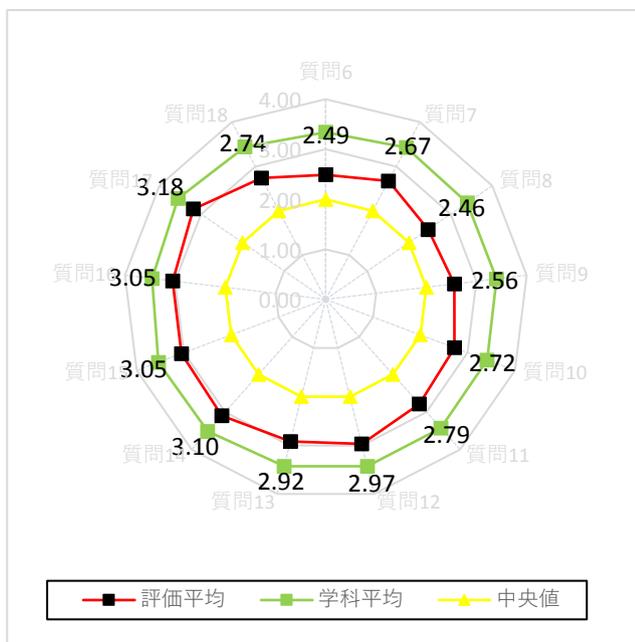
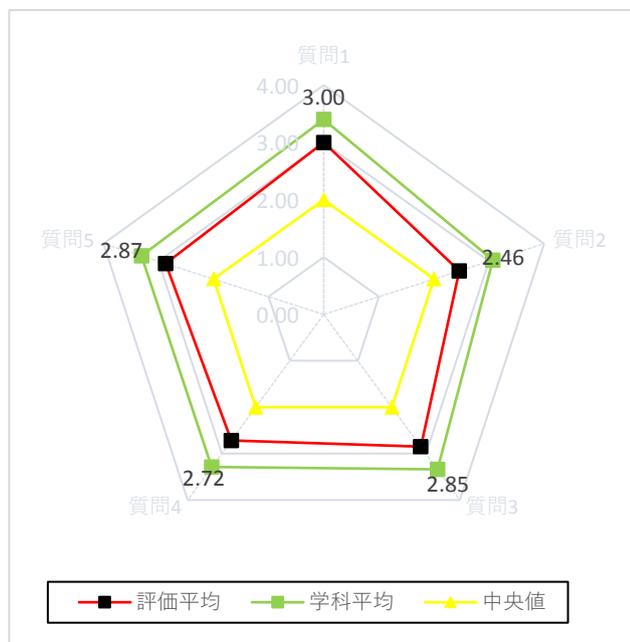
52人中48人(92%)の高い回収率であった。
 全体的に平均か、平均をやや下回る結果であった。
 授業中教室を抜け出す学生が目立つ、やりにくいクラスであった。
 授業をしっかりと聞いていると思われる学生と、そうでない学生の差も激しいクラスであった。

(3) 次年度に向けての取り組み

学習についてのレディネスがそもそもできていないのではないかと感じる学生が増えているように感じる。
 まず学習に興味を持たせることが求められると思うが、学生個々の生活する世界が狭く、なにか共通の話題を共有することが困難になってきているように感じられる中、どのような切り口で学生の興味関心を喚起していくか、今後の大きな課題である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		心理学的支援法	52名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

52名中39名(75%)の回収率であった。

- >授業内容が自分語りでとてもつまらない、何に対する指摘なのか不明。
 - >心理学のこと話したと思うと、教科書を音読してるだけでつまらない。教科書音読の前にはその説明をしているが、聞いていなかったものと思われる。
 - >学生が授業中、教室抜けると抜けた理由聞くのはわかるが、確実に最前列にいる学生にはどれだけ遅刻しても何も言わないのはおかしい、
 - >考え方を改めて欲しい
- 遅刻した学生に対しては出席簿で遅刻をチェックしており、同じ遅刻した学生でも指導する学生と指導しない学生がいるというのであれば最前列という指摘も理解できるが、そうではないので、筋違いの指摘と言わざるを得ない。

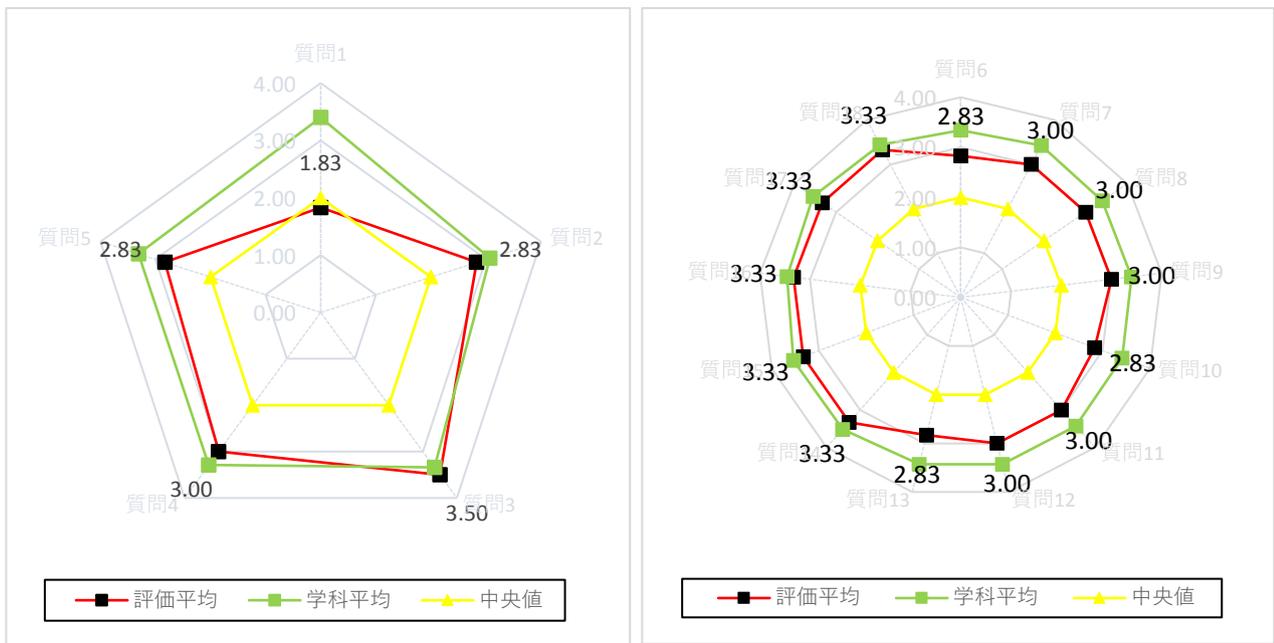
Q15公平に学生に対応しましたか、の問に対しても43.6%の学生が4. そう思う、30.8%の学生が3. だいたいそう思う、と回答しており、「最前列」というのは一部の学生の偏った見方ではないかと考えられる。しかし一方で全体的に学科平均より低い評価になっている。ただ質問が設定されていないQ19~Q25までの設問に回答している学生もあり、評価自体の信頼性にも疑問を感じる。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業をしっかり聞く(姿勢ができていない)学生と、そうではない学生の差が激しい。聴く姿勢ができていない学生に、聴く姿勢になってもらうかは今後の大きな課題である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		精神分析学	9名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

履修登録者9名中6名が回答している。評価者の母数が少ないため、概ね3, 4点の評価が多いものの、1人でも低い評価を付ける学生がいると、評価平均に大きく影響が出る。そのため、学科平均よりは低い評価になっていると考えられる。

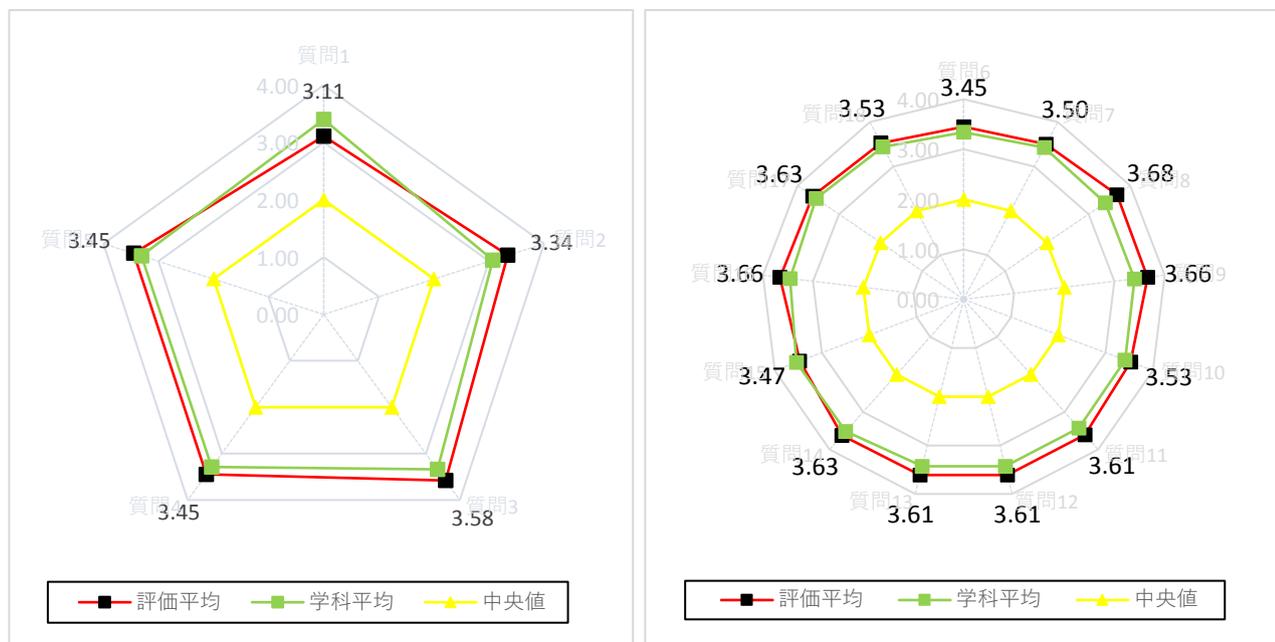
(3) 次年度に向けての取り組み

テキストには具体的な文言の例がふんだんに掲載されており、授業の中でも具体的な例をあげながら説明している。

カウンセリング、特に精神分析的な心理療法を解説するにあたり、かなり噛み砕いているつもりであるが、精神分析的な概念の性質上、わかりにくいところも残るのも無理はないかもしれない。私自身も何年もかかって少しずつ理解が深まっていく場合もある。学生にはすぐにわかろうとするのではなく、今後の現場での体験をふまえて再学習する中で少しずつ理解を深めていくことを伝えていきたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		芸術療法	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

・全体的に学科平均より高く、学生の理解度3.45、学生による総合評価3.53と高い評価を得ている。特に、質問項目8の授業に対する興味関心度は3.68、質問9の授業ののわかりやすさなど3.66であり、学生による総合評価も3.53と高く、学生のこの授業に対する取り組み姿勢がうかがわれる。

以上のことより、授業評価は、全体的に学科平均より高いことがわかる。

授業を振り返りながら分析すると、教員は学生一人一人に対する双方向的なやり取りをしながら授業を行った。その結果が、質問16の3.66という高得点につながったと思われる。また、芸術療法は、実践を多く取り入れているが、必ずレポート提出を義務付けている。

学生自身が芸術療法を体験し、そこで生じた内的体験をレポートにすることを通して、自己理解。他者理解につながっていったと思われる。

中には、この授業を通して、卒論のテーマや大学院進学を考える学生も出てきている。

(3) 次年度に向けての取り組み

・この授業は学生が非常に興味を持って取り組み受講してくれる科目である。そのため、オープンキャンパスでの箱庭・コラージュ体験でも手伝ってくれ、来校する高校生とも、体験を通した双方向的なやり取りができており、こういう場面でも授業の効果がみられている。

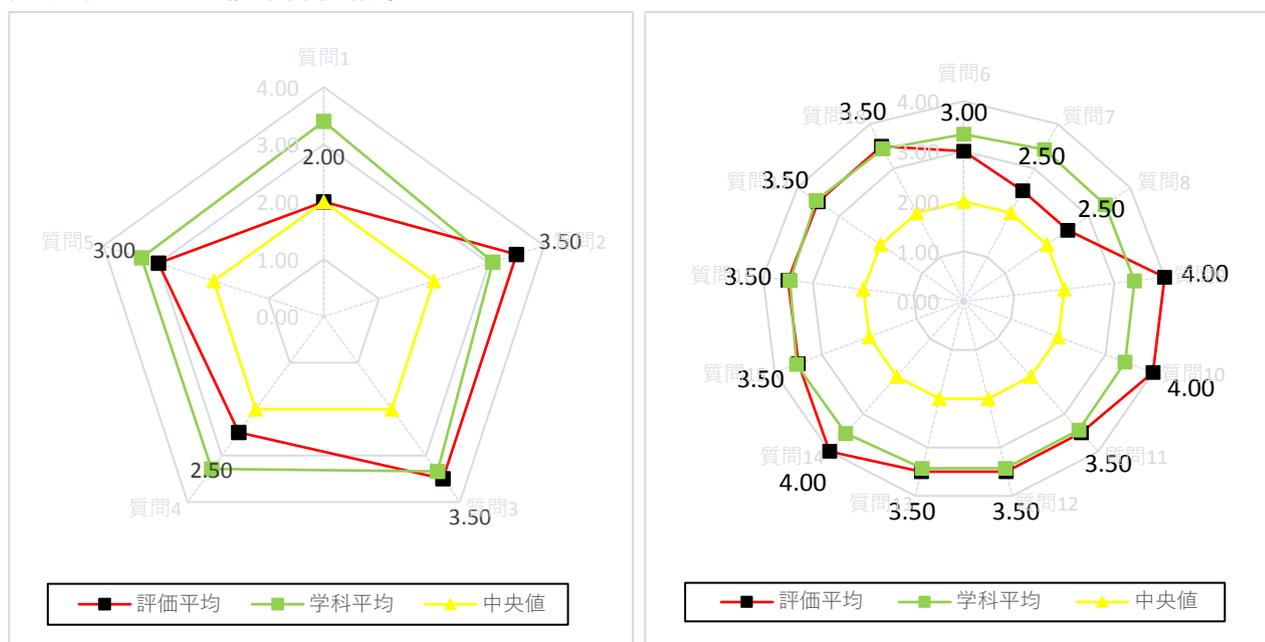
また芸術療法を学ぶ上で、必ず自己と向き合う体験をし、レポート等を通して自分の過去、現在、未来について振り返っていく学生も多くみられる。

そうしながら方向性を見つけていくものと思われる。

反省点としては、レポートを通した振り返りを行っているが、もう少し踏み込んで、グループワークを取り入れながら芸術療法を通して自分について考える時間がとれればと思われる。TAとして参加してくれている大学院生にとっても学びの場であり、学部生との交流を通してよい体験にもなっている。もう少しTAの人員が増えるならばより効率よく授業が展開すると思われる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		カウンセリング実践演習Ⅱ	26名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

26人中2名回答（7.7%）。回収率が低かったのは、授業評価に対するアナウンスが弱かったためと考えられる。

2名の回答なので、ブレが大きく出たようである。統計的な判断は難しい。

(3) 次年度に向けての取り組み

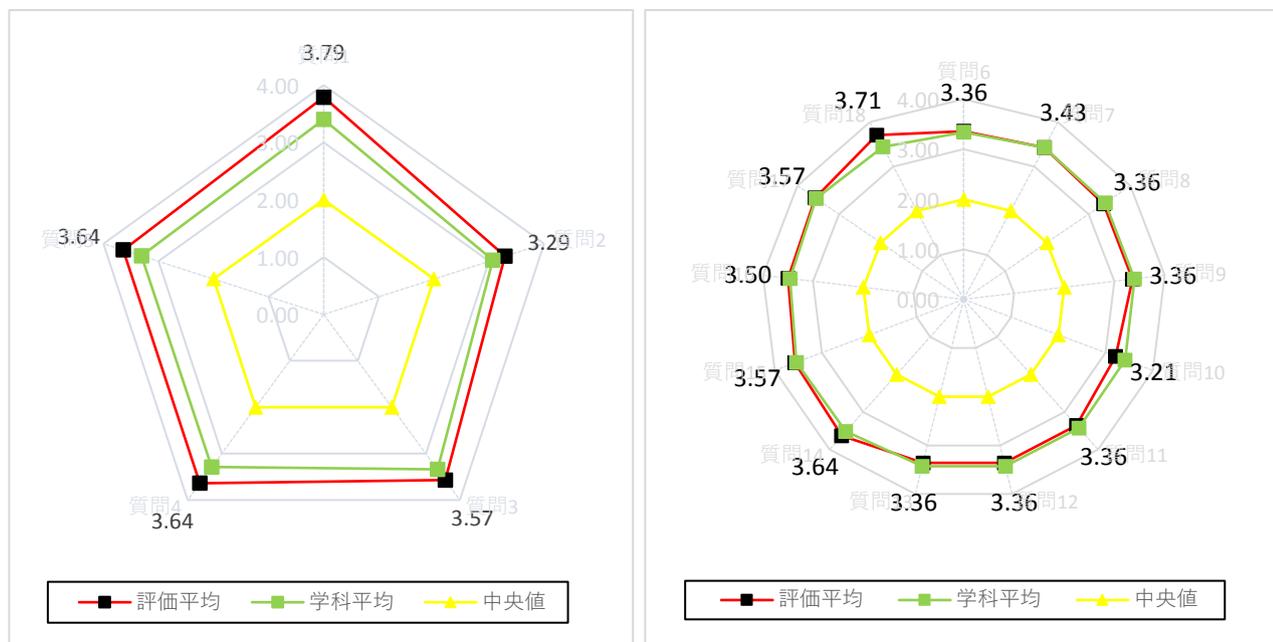
まず授業評価の回答率を上げるようアナウンスを繰り返すことが必要であろう。

また時間が確保できれば授業時間内に回答を促すことも考えられる。

その上で授業の内容について改めて考えていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		カウンセリング実践演習Ⅲ	16名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

・本授業は、外部実習を通じた心理実践演習である。小城市内の8つの小学校に年間を通して子どもサポーターとして1日4時間ほど入っている。実際に教室に入り小学生の授業状態を観察したり、離籍する児童の支援を行ったり、一緒に遊んだり内容はさまざまである。ほかに、児童養護施設での子どもたちとの触れ合い、不登校を対象として適応指導教室に1年間、東北大震災支援活動に参加、コラージュ研究会への参加など実践活動を通して学んでいく授業である。そのため対面式での授業は少なく、学生の主体性の中で地域の中で活動している。

授業に対しては、最初の数回を使い、シラバスを用いて説明し、目標やねらいなどの確認を行っている。実習は、各領域担当を決めているため、自分の責任で行動するため、無断欠席などは他者の迷惑となり本人たちも自覚している。そのため質問項目1, 2, 3, 4, 5と高い評価を得ている。また実習に際しては、毎回記録を書いてもらい、報告会を最後に行っている。

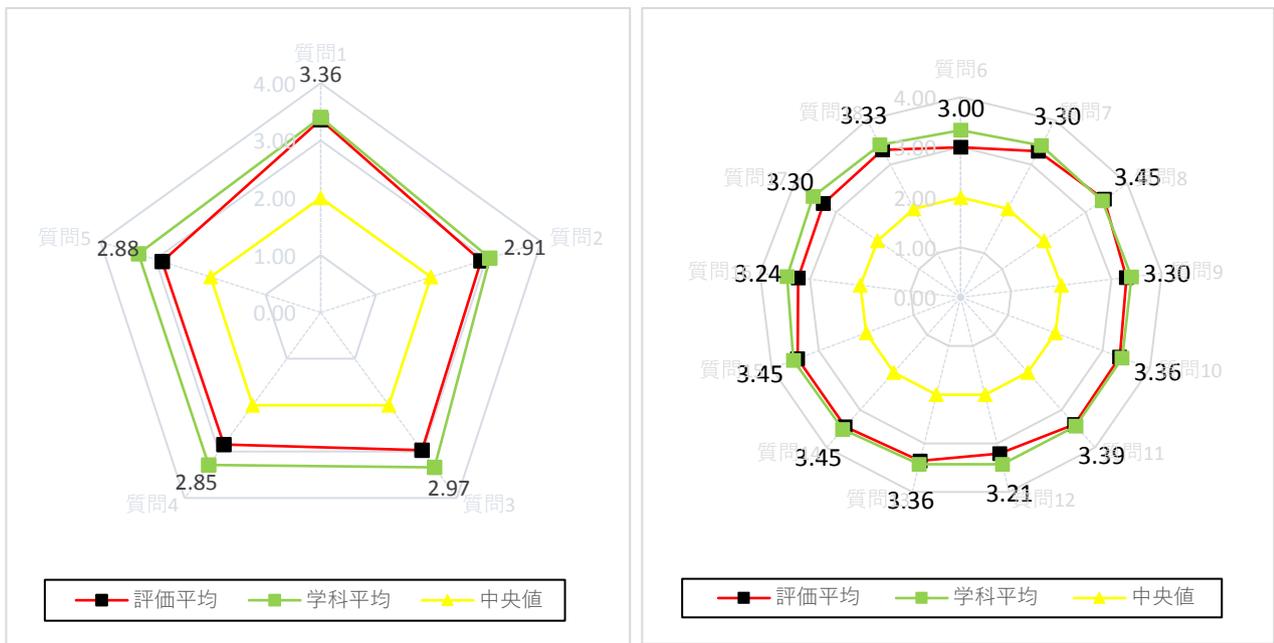
(3) 次年度に向けての取り組み

・児童への関心や将来心理職を考えたり、大学院進学を考えたりしている学生を対象としている。そのため、目的意識も高く、自分たちで考え話し合い実習に臨んでいる。教員はそれぞれの領域を巡回指導を行っているが、どこも高い評価が得られ、特に小学校では回数を増やしてほしいという希望も多くみられる。改善ではないが検討しないといけなことは、公認心理師受験資格としての実習時間数が、本来は80時間である。実際、時間数的には多く実習に行っており、今後実習施設の検討や方法について検討が必要である。

しかし、地域における外部実習の体験は、1年間を通して成長の跡がみられ、インターシップなど就職活動に影響を与えており、児童養護施設への就職や適応指導教室への就職などつながっている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		思春期・青年期心理臨床	34名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

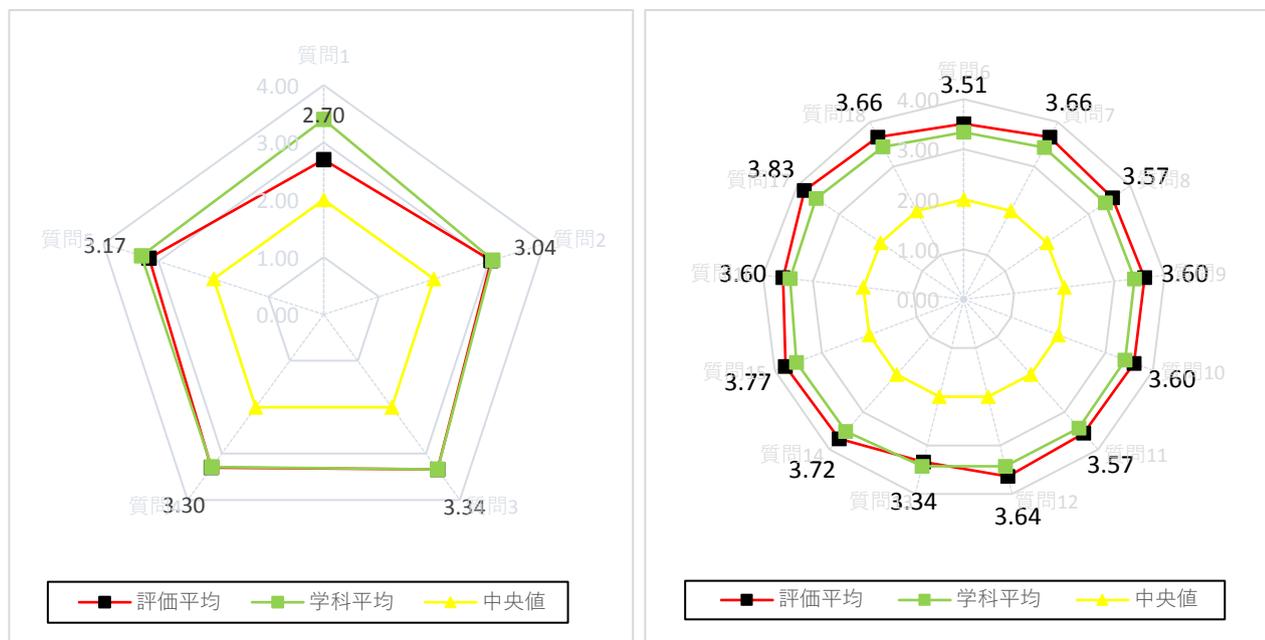
今年度、担当教員の代打で行った科目である。グループワークをして進めていったが、それがかえって学生間の不平等感を生んだようだ。そしてグループワークを取り入れることで、教員がやる気のないような姿に移ってしまったのが残念である。教員の発言をもっとしておけばよかったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

この科目をもつことは次年度はありません。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		障害者・障害児心理学	53名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

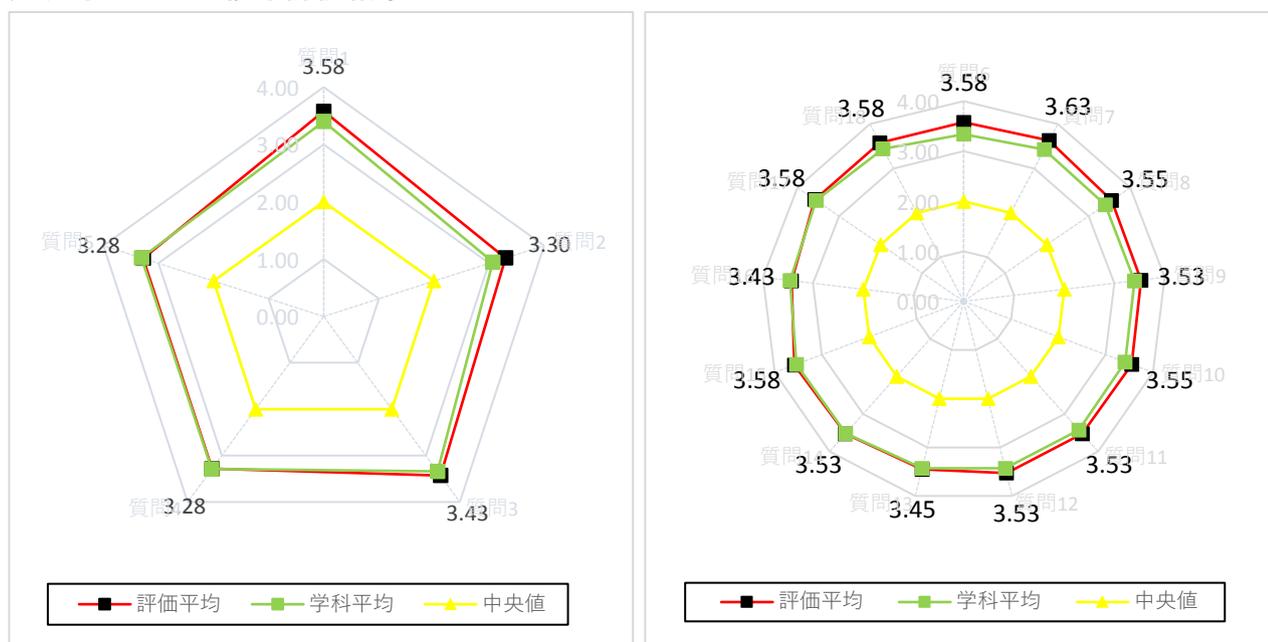
質問3「居眠り・私語をせず真剣に取り組んだ」が3.34、質問4「自分で工夫」は3.30、自己総合評価は3.17であった。一方、質問1「欠席」は2.70と学科平均を下回っている。質問6から18までは全項目学科平均を上回り、特に質問14「誠実な対応」は3.72、質問15「公平性」は3.77、質問17「熱心さ」は3.83と高得点であった。学生自身の生活リズムをどう構築させるかが、学科としての喫緊の課題である。

(3) 次年度に向けての取り組み

1限に「来なければ」ではなく、「来たくなる」授業を検討したい。方法のリサーチに努める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		暮らしに潜む異	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

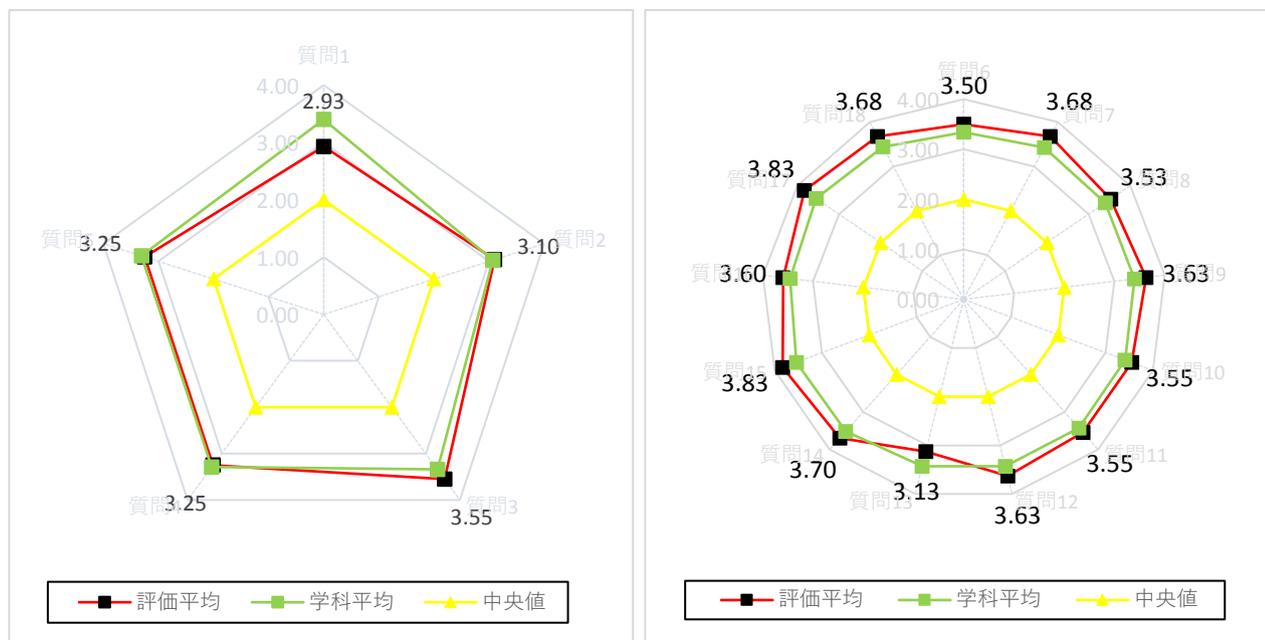
質問1「欠席」は3.58、質問2「シラバスの活用」は3.30、質問3「真剣に取り組む」は3.43という結果であった。質問6～18までは均等に高い評価を得ていた。特に質問7「授業の到達目標の明確化」は3.63と最も高く、次いで質問15「公平性」は3.58、質問17「熱心さ」も3.58、総合評価も3.58であった。毎回、次回の授業のための調査学習を行わせ、調査結果に基づきグループ・ディスカッションを行って授業を進めていたのだが、受講生は質問4「授業への工夫」を3.28と、あまり高くない評価をしている。これは学生は予習と思わずに調査学習を行っていたことを示している可能性がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度を踏まえ、本人たちが負担に感じない調査学習を毎回課題にし、アカデミックスタディスキルの向上に努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		福祉心理学	42名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

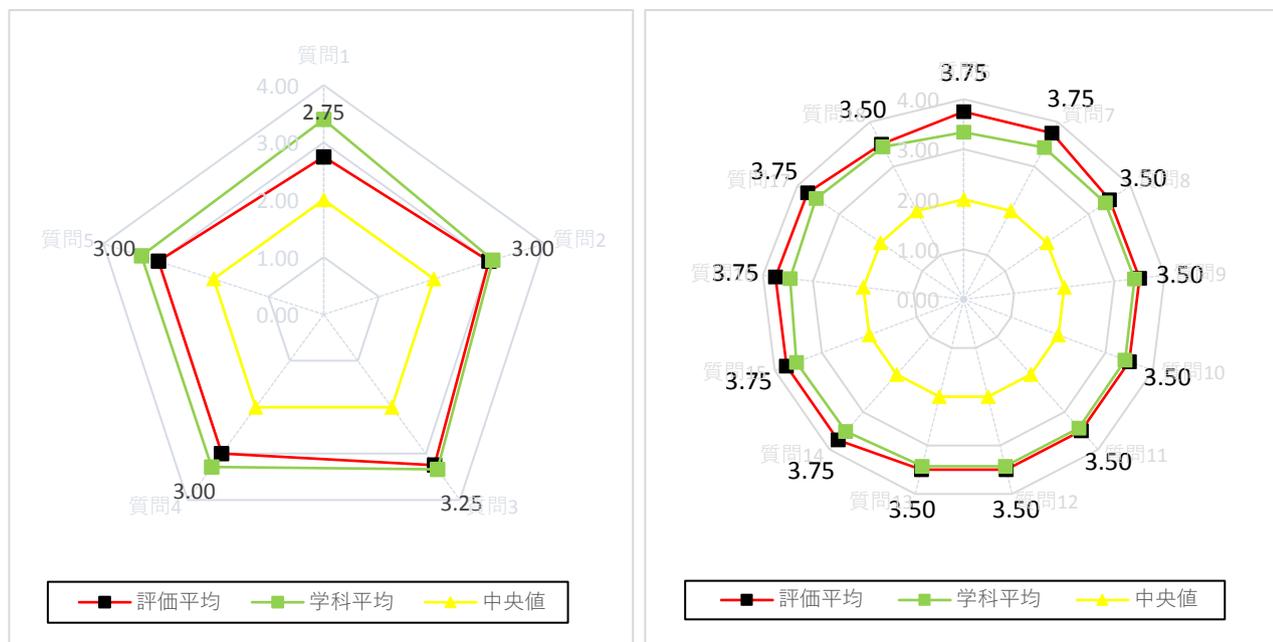
質問3「真剣な取り組み」は3.55と学科平均値を上回る評価であった。一方質問1「欠席」については2.93であった。
 質問6～12、14～18までは、学科平均を大幅に上回る評価を得ている。しかし、質問13「進捗の速さ」は3.13であった。
 国家試験受験科目で、初めての授業であったことから、取り扱う範囲の選定をもっと絞る必要があったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度の国家試験の内容、および市販されている国家試験対策書籍を参考にし、授業範囲を絞って授業展開していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		ゼミナールⅡ	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

本科目では、多くの項目で学科平均を上回る結果となった。

前期はアカデミックライティングのスキル向上のための講義・演習を行い、その後学生個人の興味関心ある分野の先行研究の発表などを行った。論文検索の仕方については、図書館との連携も行い、再度検索の仕方なども周知した。また、授業時間外での個別指導や少人数指導も行い、発表資料作成について適時指導を行った。それらの取り組みが、特に質問14、15、16、17の結果に反映されていると思われる。

授業評価回答数が半数程度となったことは今後の課題である。

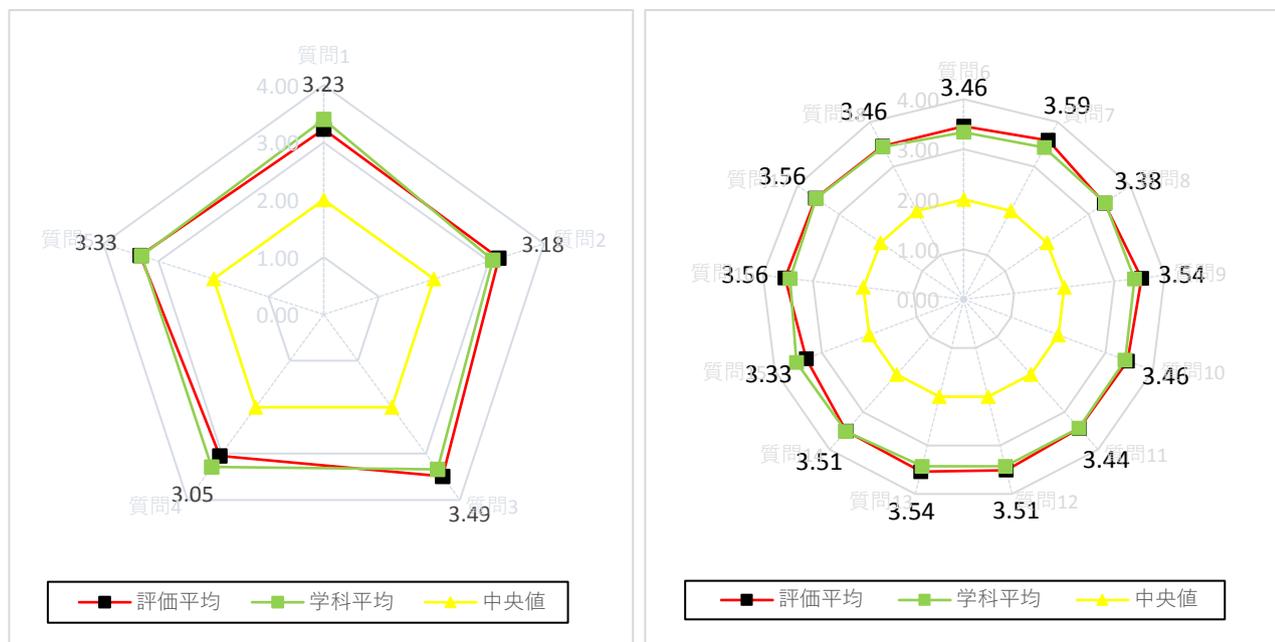
(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も、今年度同様にアカデミックライティングのスキル定着に向けての丁寧な指導を行っていきたい。その際、今年度高い評価であった誠実性や公平性、熱意などを今後も意識して学生指導にあたりたいと考えている。図書館との連携も引き続き行っていく。また、個別指導・少人数指導等も各学生に公平に行っていきたい。

次年度は授業評価の回答数を増やすために、授業内での十分な時間確保や授業評価の機会を複数設定するなど工夫していききたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		カウンセリング実践演習	47名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

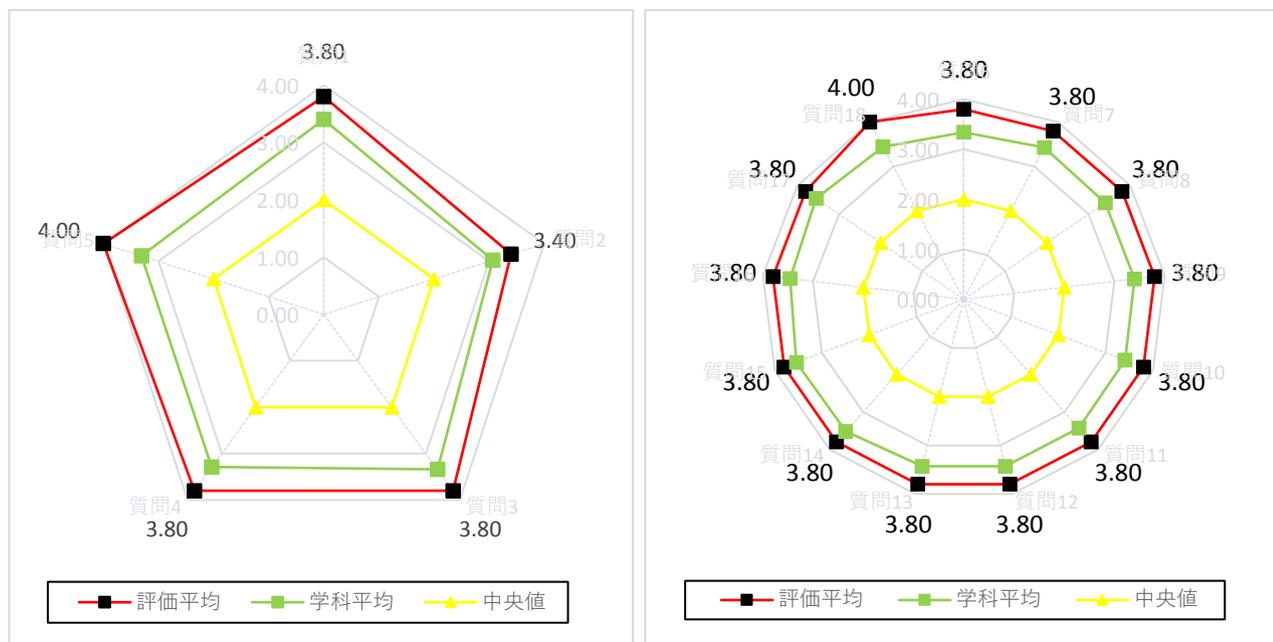
ほとんどの質問では、学科平均より同等か高い数値となっている。しかし、質問4や質問9などは、学科平均よりも低い数値である。本授業では、カウンセリングの基本となる傾聴の体験や、子どもに関する現場の見学実習を含んでいる。そのため、グループでの体験学習など多く、緊張しながらの体験と知識が結びつきにくいことが考えられた。しかしながら、質問3、質問5などのように、カウンセリングに必要な基本的な態度を学ぶために、意欲的に取り組んだと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業の計画・内容について、担当者間での情報共有を行い、再検討をする。さらに、授業の到達度は、適切かどうかを検討する。その結果、シラバスの計画および到達目標を見直し、分かりやすいテキストの導入を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		卒業研究	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

・学科平均と比べて、かなり高い評価を得ている。学生による総合評価も4.0であり、また学生による自己評価も4.0である。かなり満足したものになっている。今回のゼミ生は、3年留年の学生、1年間留学し復学した学生もいて、かなり学習力に差がみられ、卒業論文の進捗状況も集約できない状態であった。

以上のことを踏まえて、学修過程を振り返り分析する。

授業開始時、学修の到達目標及び授業のねらい、方法について説明を行った。

とくに、卒業研究が、大学生生活の集大成であることを伝え、意識化させるようにした。前半は、題目も含めて文献収集に時間を当て、その中から要約させ、研究にどう役立てていくのかをレポートしてもらった。そこから、デザインを考え、章立て、調査研究の学生は、調査研究実施、文献研究の学生は、さらに文献収集と課題絵を与え取り組んでいった。後半は、個別指導が主となり、ほとんどが時間枠以外の時間や、メールでのやり取りなど多様な方法で指導を行った。少しの指導で展開する学生と、1対1を継続して行わなければ進まない学生もいて、指導の難しさを感じた。

(3) 次年度に向けての取り組み

・大学生生活の集大成として、卒業研究を置き進めてきた。文章がなかなか書けない学生や文献指導から入らないといけな学生などさまざまであった。

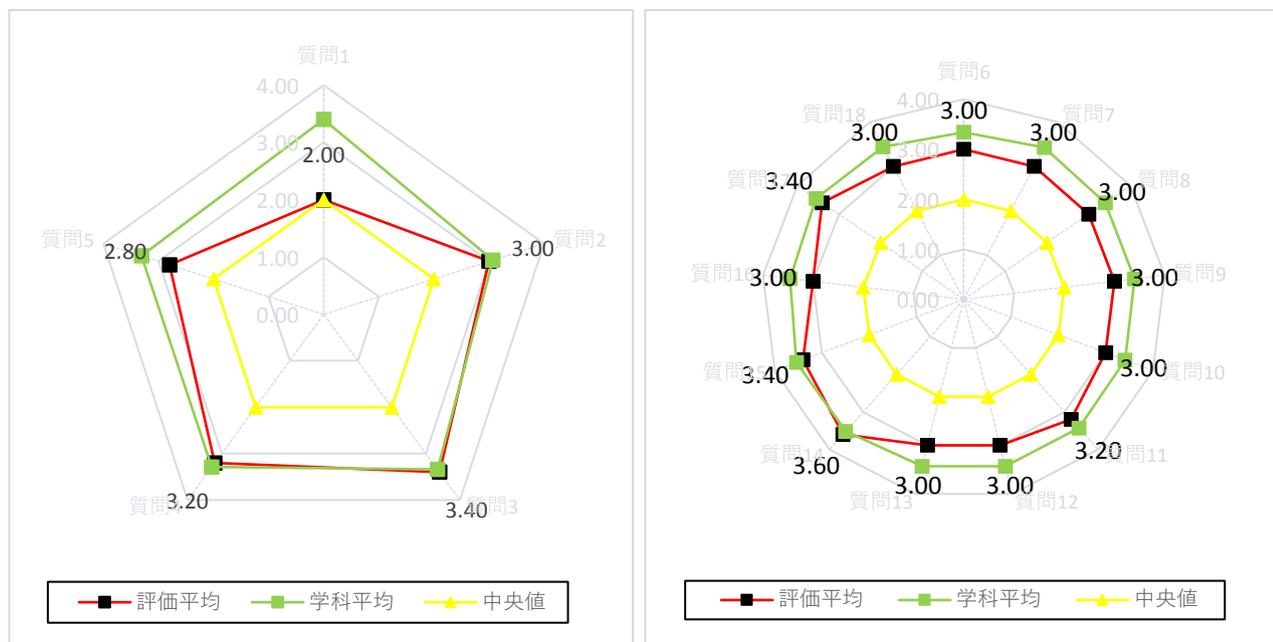
しかし、時間をかけ、学生に応じた双方向的な方法で行うと学生のモチベーションも上がり熱心に取り組んでくれた。

卒業研究を通して、学修力も上がり、大学院進学が4名（内1名は学外大学院）が進学し、1名が公務員試験に合格した。

しかし、学修の遅れを持つ学生は、時間を十分にとりながらの指導が重要であることを痛感した。週に数回、図書館において文献指導を行ったり、その場で文章を書かせ添削したりなどかなりの時間を要した。次年度に向けては、やはり早くから、卒業研究に取り組ませるために、個別指導に重点を置き、卒業研究への意識化を図ることが必要であると思った。学修の遅れを持つ学生に対しては、3年時よりの指導が必要であり、それだけ時間をかける必要があると思われる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		卒業研究	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

6名中5名回答。

1名が、「1」評価を多数付けているが、他は「3」ないし「4」であり、何をもちて「1」と付けたか不明。

卒業研究自体についてまだに理解していないのであろうか。

せめて自由記述で何かコメントがあればそこから推測することもあるかもしれないが、統計上意味を感じられない。

(3) 次年度に向けての取り組み

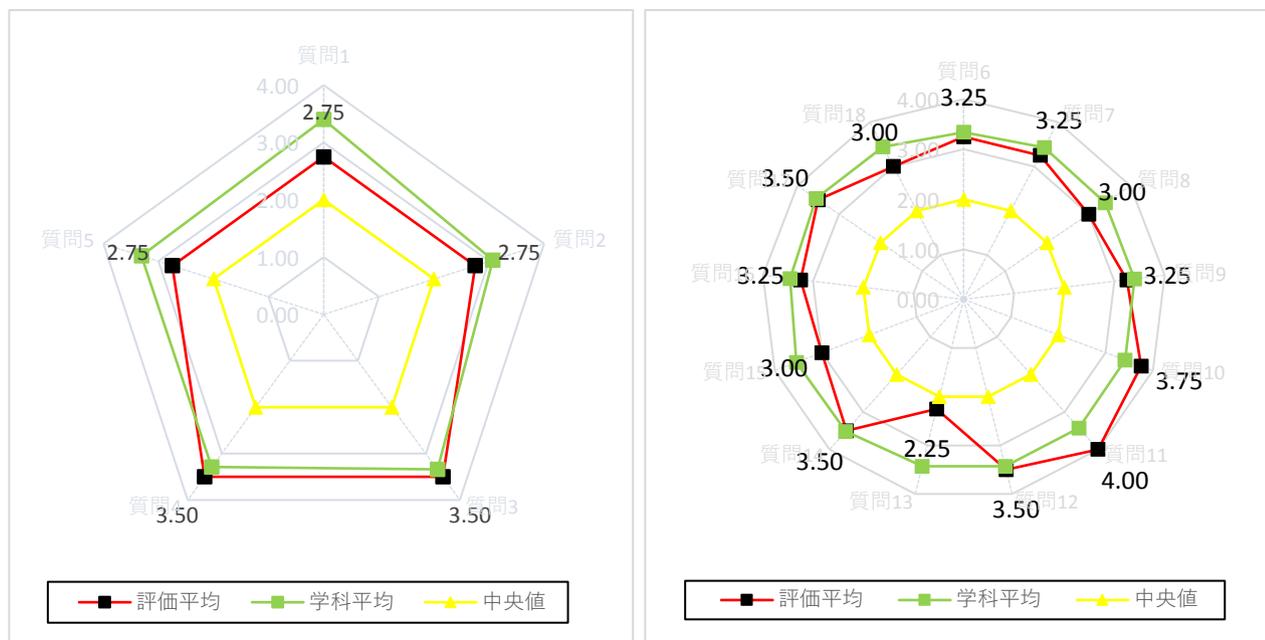
あくまで卒業研究は学生が主体的に取り組むものであり、学生の求めには応じていきたいと考えている。

しかし、他の学生が進めている中、なかなか形になって現れない学生に対しては、指導の困難さを感じる。

本人が、自分が「できていない」ことを自覚していればまだしも、「できます」「やります」と言いつつまでもできない学生についてはさらに困難を感じる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		卒業研究	7名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

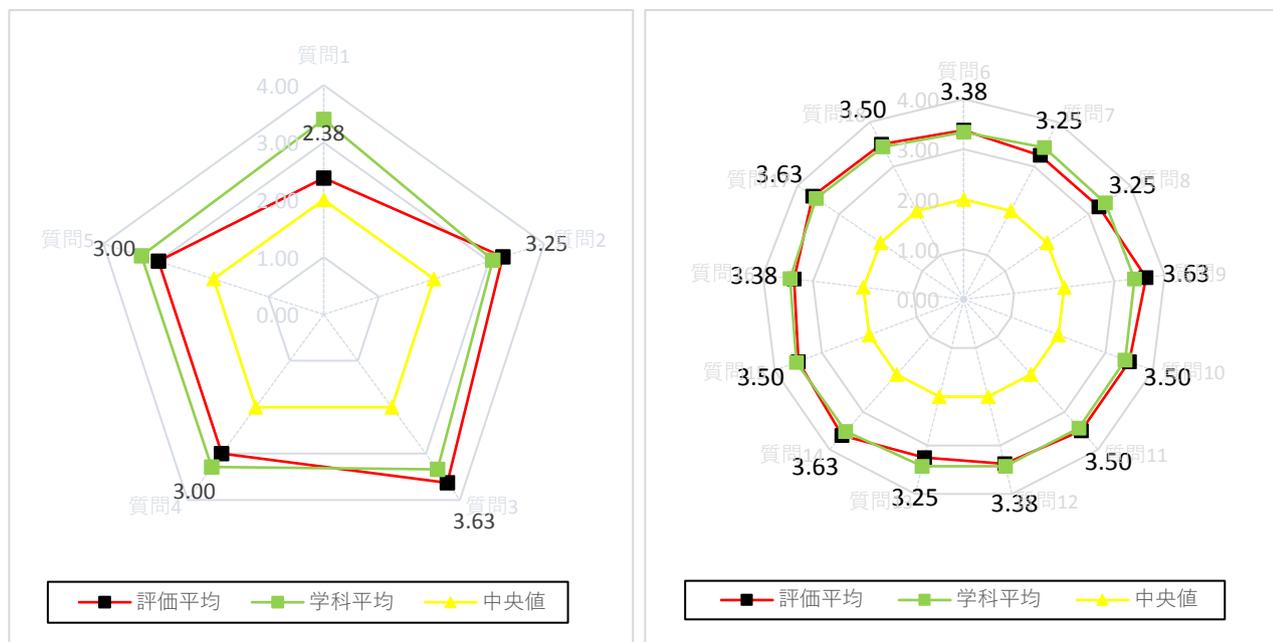
学生の水準に開きがある中で、一部の学生にとって授業についていくことが大変だったと思われる。しかし、各位とも学習に工夫をこらして頑張ったことがよくわかるとともに、全員にとって適切な学習支援材を提示することができていたことも分かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

学年全体のものとして書かれているシラバスに、自身の指導方針及び形態を落とし込み、学生に説明していけるようにしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		ゼミナール I	10名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

本講義は、ゼミ指導・個人指導と学科全体での授業形式とが混在しており、ゼミ指導においても各教員の指導体制が揃うよう、事前に調整を行って授業が行われた。ゼミ指導で使用した教材はアカデミック・スキルの向上を目指すものであったが、昨年の授業評価の結果を活かし、卒業論文とのつながりなどモチベーションを上げる言葉かけなど増やすことができたため、昨年度を上回る結果を得た。

質問9の結果は学科平均を上回っており、自由記述でも「丁寧な説明で分かりやすかった」との評価を得た。一方で説明が冗長と感じられた学生もいたようであり、各学生の理解・進度のばらつきへの対応の難しさも感じられた。

授業評価回答数は、最終回で十分な評価時間を確保することが出来たため、前年度よりも多くの学生が評価を行うことができたと思われる。

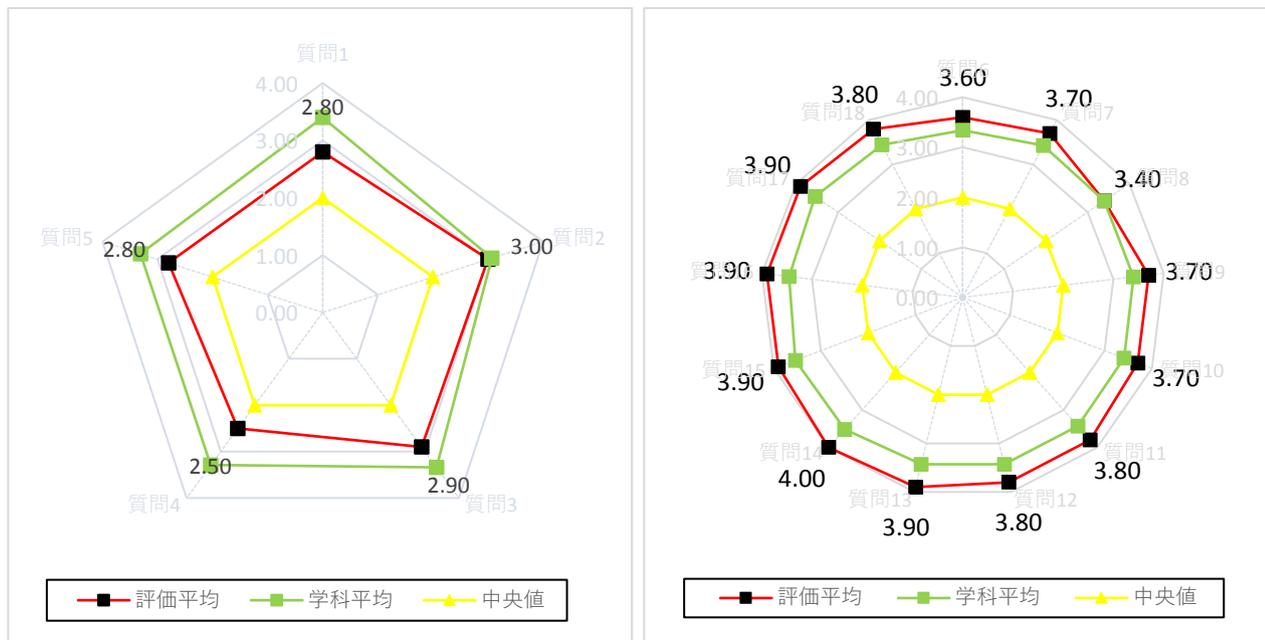
(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けて、今年度同様授業担当の複数教員で授業内容や教授方法などについて十分話し合いコンセンサスを得る時間をとることで、より分かりやすい授業構成を目指したい。また、上記にも述べたように、個別ゼミ指導で使用した教材が卒業論文に向けてどのように関連するかなどの見通しを詳細に伝えることで、課題に取り組むモチベーションを上げるよう工夫したい。

わかりやすく丁寧な説明を心掛けたことで高い評価とした学生がいた一方で、説明が冗長と感じられた学生も見受けられたため、説明・解説について学生の状況を勘案しながら行っていきたい。場合によっては全体説明を端的に行い、その後個別のフォローを行うなどの工夫も検討していきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		ゼミナール I	10名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

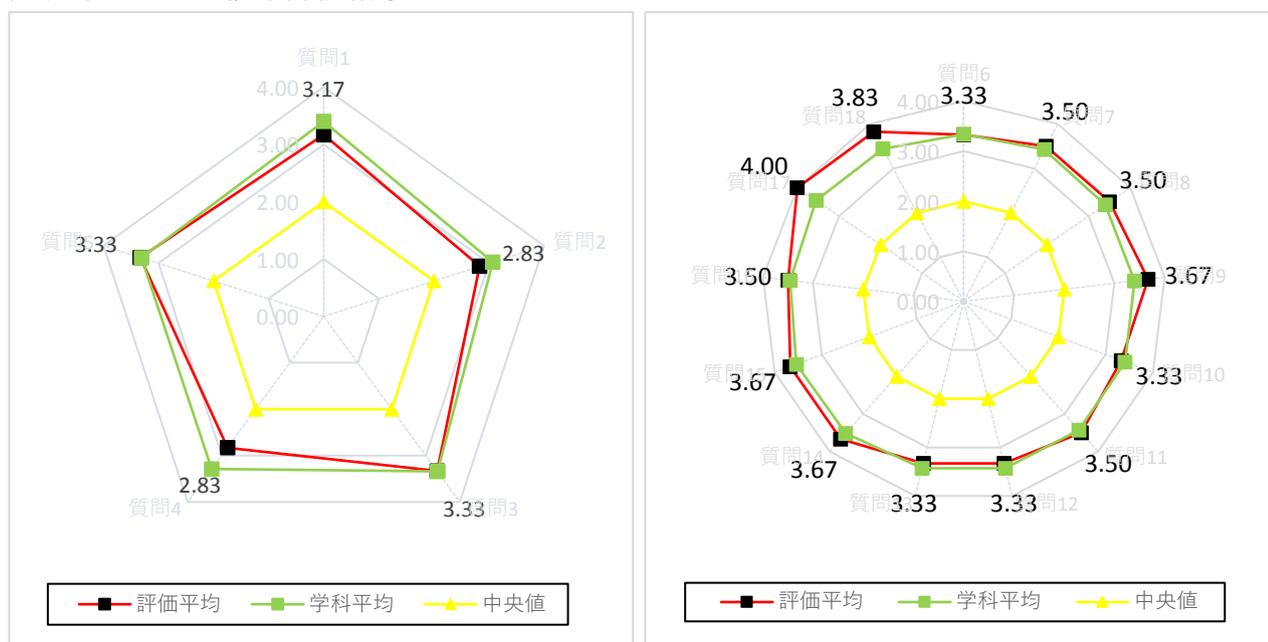
学生のキャリアアップを目指す個人面談の授業回が数回あったことで、自分が教員から対応してもらえているという感覚が得られたかもしれない。

(3) 次年度に向けての取り組み

相対的にも低い「この授業を理解するために自分で何か工夫」する部分においては、学習の汎化・日常化という視点からもう少し積極的に投げかけるようにしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		ゼミナール I	9名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

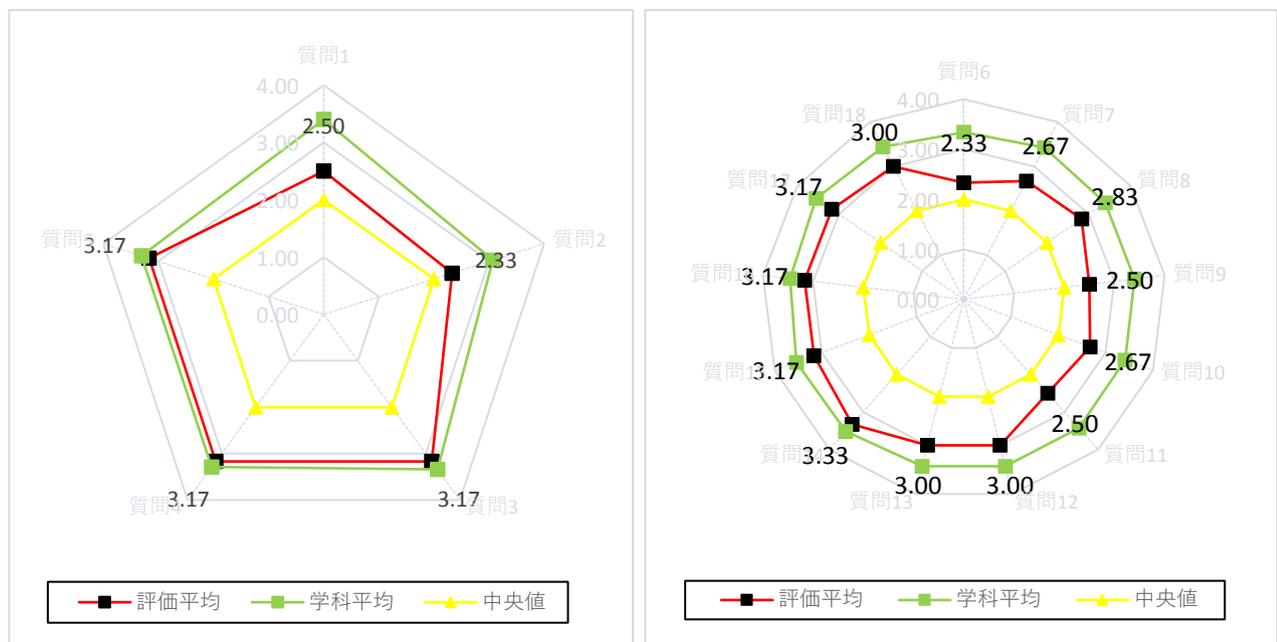
ほとんどの質問において、学科平均よりも高い数値となっている。その中でも、質問13は若干であるが学科平均よりも低い評価であった。特に、個別のレポート指導は、一人あたり1回7~8分程度と短時間であった。しかし、授業全体の組み立てもあるため、学生への指導時間の確保が難しい状況であった。それに伴い、学生によってレポートに取り組む速度にばらつきが見られていたこともあり、授業の速さが適切でないと感じた学生もいたのではないかと考える。しかしながら、本講義への総合評価は高く、学生と双方向的なやりとりをしながら進めることができたと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

少人数ではあるが、学生によって課題に取り組む理解やスピードが異なるため、個別に応じた対応が必要となると思われる。特に、個別の指導においては、短時間ながらも、指導のポイントを絞って学生の力につなげる工夫が必要だと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		ゼミナール I	9名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

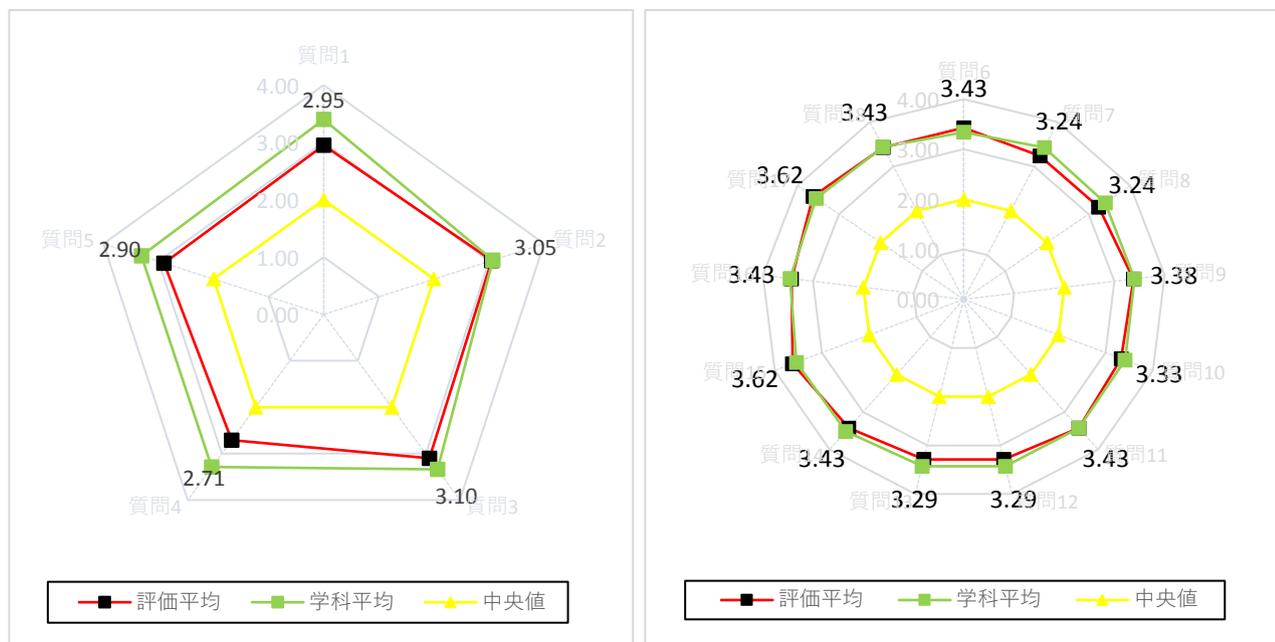
ゼミナールの目的そのものを教員が正確に理解していないこと、意味もわからないこと、によって学生には迷惑をかけてしまった。言い訳になるが、初めてのことなので、私としても戸惑いながら進行した次第である。なぜ大学生にもなって、これをしないとイケないのか悩み続けた科目であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

ゼミナールの目的、意味を理解できたので、次年度からは比較的スムーズに進行できると考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		肢体不自由者教育	22名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

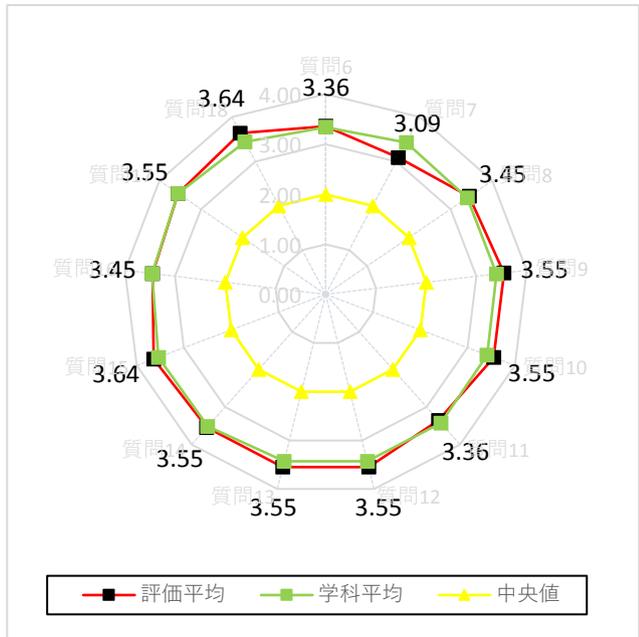
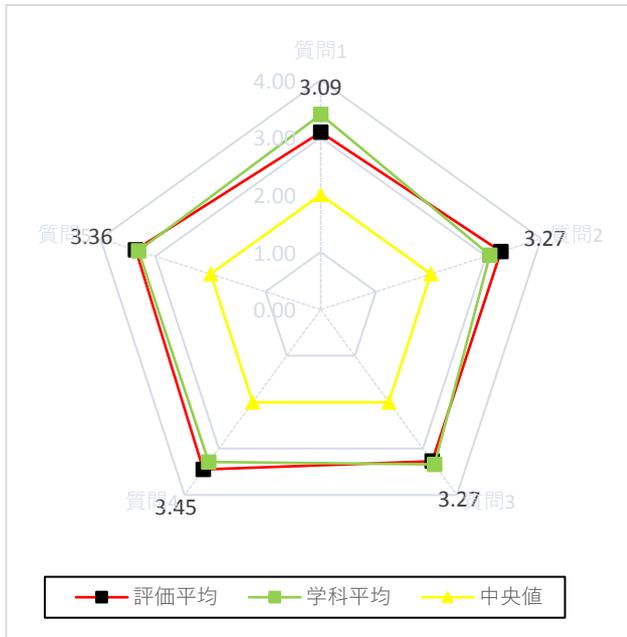
- ・評価平均がおおむね学科平均と重なっている。
- ・子ども学科の学生のうち、小学校の教育実習と重なって受講した学生が5名、心理の学生で高校の教育実習と重なっていた学生が1名いたため、シラバス通りに進めることが難しい状況であった。
- ・学生の多くが肢体不自由の子どもとかかわった経験が少なく、DVD等の視聴覚機器を活用して、子どもの様子等を視聴させたが、理解が進まなかった。
- ・肢体不自由特別支援学校の実際の授業場面を見学検討したが、時間割上困難であった。
- ・基礎知識である心理・生理・病理について知識が定着しておらず、肢体不自由児の子どもが理解が不十分なため、何を学ばせるのかなど、主体的に考えることができなかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・実際に特別支援学校の授業見学等の体験学習を入れていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		肢体不自由者教育の理論と実際	19名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

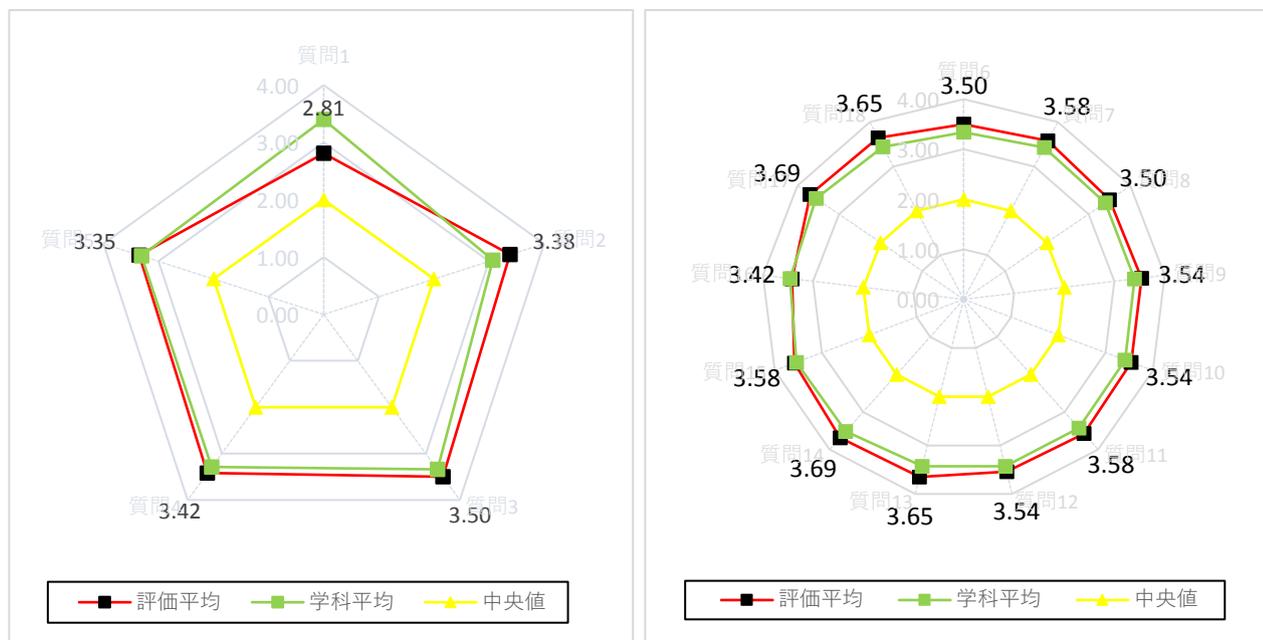
- ・評価平均がおおむね学科平均と重なっている。
- ・受講者19名中7名が、前期の「肢体不自由者教育」を履修せずに、この科目を履修しているため、肢体不自由教育の教育課程や教科の指導、自立活動の意義等について学習しておらず、他の学生と一緒に授業を進めることが難しい状況であった。
- ・授業計画については、最初に説明していた。しかし、実際にワークショップ形式で授業を進めていったため、また、前期の「肢体不自由者教育」を履修していない学生が多かったため、授業が予定通り進まなかった。
- ・子ども学科の学生のうち6名が幼稚園実習と重なり、自立活動の指導目標の設定までのプロアセスについて学習できていなかったため、事例検討を進めるワークショップで予定以上の時間を要した。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・実際の具体的な実践事例等をビデオ等視聴覚機器を活用して示し、その事例をワークショップ形式で個別の指導計画（自立活動）を作成させていくようにしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		知的障害者教育	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

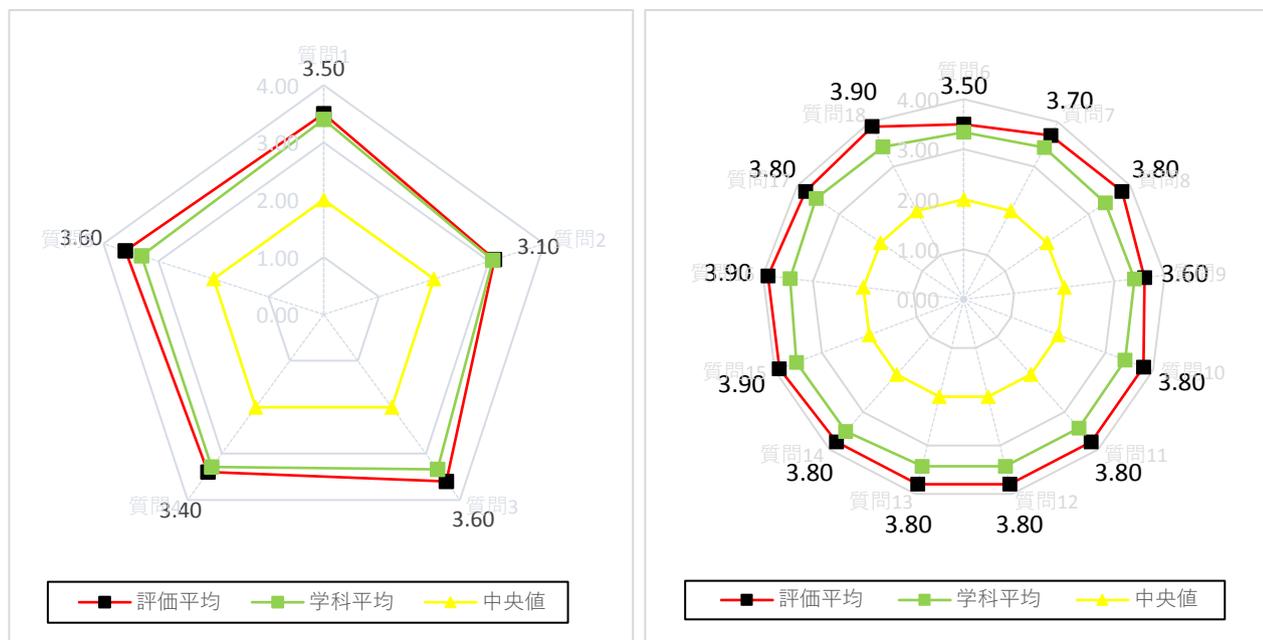
- ・評価平均を見ると、どの項目についても、3.5もしくはそれ以上となっており、おおむねよい評価であったと思われる。
- ・その中で、質問16については、他の項目と比べるとやや評価が低い。授業の進め方として、教員の説明の比重が多くなっていった面がと思われる。
- ・学生の自己評価については、欠席に関する評価が他の項目と比較して低いことが目立っている。1限目の開講であったことが影響を及ぼしているかもしれない。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・教員が詳細に説明する必要がある内容は多いが、そのことと、グループワークやディスカッションなどの活動とのバランスを再検討し、双方向的な授業の工夫を行う。
- ・シラバスに基づき、次回の授業の目的や内容の周知を図るなどして、学生の意識の一層の向上を図り、欠席せずに授業に参加することを促す。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		特別支援教育実習事前事後指導	12名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

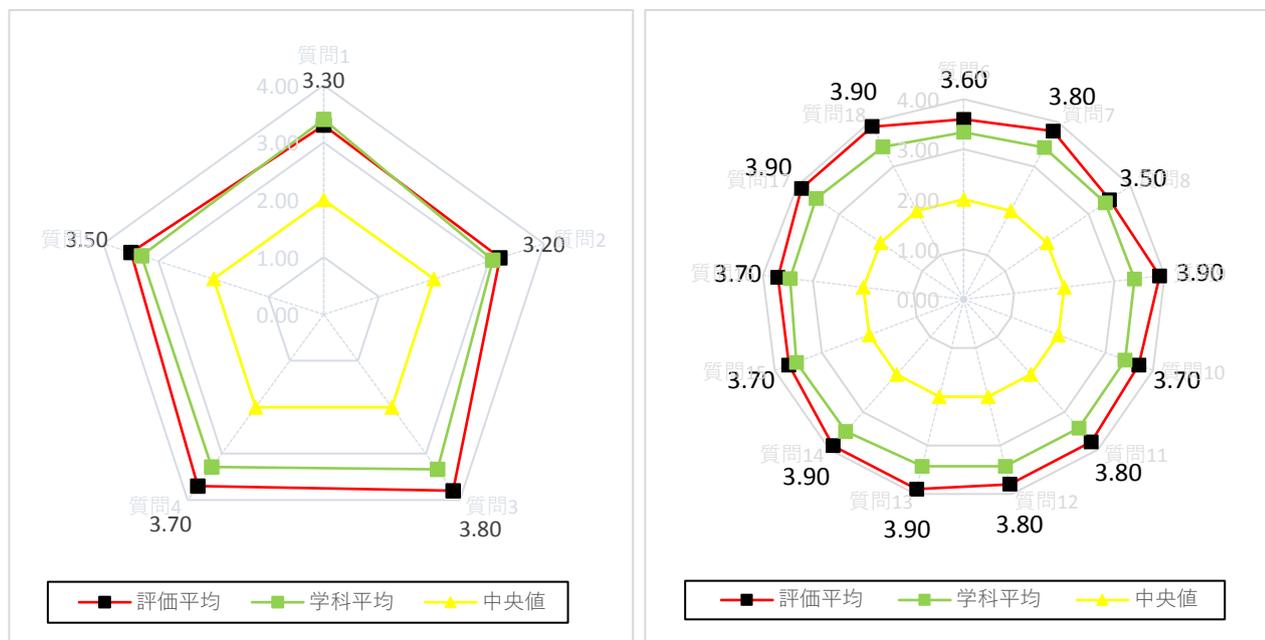
- ・すべての項目で評価点が高く、評価平均の総合評価は3.70であった。
- ・年間8コマ設定しているが、教育実習の時期が9月から11月末までと、長い期間であるため、指導案作成の指導は、個別に時間を取って指導している。
現在3名の担当で実施しているが、実習生が増加してきており、3名では困難が状況になってきている。
- ・事後指導として報告会を実施しているが、次年度の実習を希望する学生へのメッセージも含め、有意義なものになっている。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・指導案作成の時間の確保。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		特別支援教育実習	12名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

- ・教育実習の評価は、学校現場での評価になりますので、ここでは控えます。
- ・学校の中で熱心に指導をいただいている評価であろうと思います。
- ・実習終了後の報告の中で、実習で多くのことを学び、先生になりたいと意志を強くする学生が増えてきています。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・特別支援学校への教育実習希望者が増えてきており、今後実習先の確保が困難な状況になってきています。特に佐賀市内（大和、金立、中原特別支援学校）への実習生の人数確保が課題である。